

平成29年度 特別入試 学生募集要項

○推薦入試Ⅰ（大学入試センター試験を課さない）

文 学 部
法 学 部
工 学 部（物質生命化学科，マテリアル工学科，
機械システム工学科[※]，社会環境工学科，
情報電気電子工学科）
※は女子対象

○推薦入試Ⅱ（大学入試センター試験を課す）

教 育 学 部（小学校教員養成課程，中学校教員養成課程，
特別支援教育教員養成課程，養護教諭養成課程）
医 学 部
薬 学 部
工 学 部

熊本大学

 Kumamoto University

入学者選抜等関係日程

	推薦入試Ⅰ	推薦入試Ⅱ
出願期間	平成28年11月1日(火)から 11月7日(月)17時まで(必着)	平成29年1月16日(月)から 1月19日(木)17時まで(必着)
工学部第1次選抜	出願書類により判定します。	/
受験票発送予定日	11月11日(金) ※ 11月16日(水)までに到着しない場合は、11月17日(木)以降に入試課(096-342-2148)へ連絡してください。	1月26日(木) ※ 1月30日(月)までに到着しない場合は、1月31日(火)以降に入試課(096-342-2148)へ連絡してください。
学生寄宿入居願請求期間(希望者のみ)	1月23日(月)から2月1日(水)17時まで(必着) ※学務課生活支援担当(096-342-2124)に請求してください。	
試験日	11月19日(土)	2月4日(土)
合格者発表	12月2日(金)9時(予定)	2月8日(水)9時(予定)
入学手続書類送付日	12月2日(金) ※ 12月6日(火)までに到着しない場合は、12月7日(水)以降に入試課(096-342-2148)へ連絡してください。	2月8日(水) ※ 2月12日(日)までに到着しない場合は、2月13日(月)以降に入試課(096-342-2148)へ連絡してください。
入学手続期間	2月14日(火)から 2月15日(水)17時まで(必着) ※ 郵送のみ(持参不可)としていますので、入学料を銀行等で納入しておく必要があります。	

この要項における表記について

1. 大学入試センター試験の出題教科・科目名は、次のように略しています。

- 国語 → 国
- 地理歴史 → 地歴
「世界史A」→「世A」, 「世界史B」→「世B」, 「日本史A」→「日A」,
「日本史B」→「日B」
- 公民
「現代社会」→「現社」, 「倫理」→「倫」, 「政治・経済」→「政経」,
「倫理、政治・経済」→「倫・政経」
- 数学 → 数
「数学Ⅰ」→「数Ⅰ」, 「数学Ⅱ」→「数Ⅱ」,
「数学Ⅰ・数学A」→「数Ⅰ・数A」, 「数学Ⅱ・数学B」→「数Ⅱ・数B」,
「簿記・会計」→「簿」, 「情報関係基礎」→「情報」
- 理科 → 理
- 外国語 → 外
「英語」→「英」, 「ドイツ語」→「独」, 「フランス語」→「仏」, 「中国語」→「中」,
「韓国語」→「韓」

2. 推薦入試Ⅰ・Ⅱについては次のように表記します。

「推薦入試Ⅰ」: 大学入試センター試験を課さない推薦入試

「推薦入試Ⅱ」: 大学入試センター試験を課す推薦入試

目 次

アドミッション・ポリシー	1	16. 平成28年熊本地震に伴う経済支援	46
募集人員・出願方法	8	17. 請求により本人に開示される個人情報	47
【推薦入試Ⅰ】		18. 個人情報の取扱い	48
1. 文学部	10	参考資料	
2. 法学部	12	平成28年度の実施状況	49
3. 工学部	14	熊本大学位置図	51
【推薦入試Ⅱ】		入試に関する問い合わせ	(裏表紙)
1. 教育学部	18		
2. 医学部医学科(一般枠)	23		
3. 医学部医学科(地域枠)	25		
4. 医学部保健学科	27		
5. 薬学部	29		
6. 工学部(ア)	31		
7. 工学部(イ)	34		
【共通事項】			
1. 出願手続	37		
2. 検定料の払込方法	38		
3. 入学志願票等の記入要領	39		
4. 学科(専攻)・課程(教科専攻)のコード番号	41		
5. 受験票	41		
6. 受験に際しての注意事項	41		
7. 合格者発表	42		
8. 入学手続	43		
9. 合格者に対する注意事項	43		
10. 推薦入試志願者が一般入試を志願する場合の取扱い	43		
11. 障がい等を有する入学志願者との事前相談	44		
12. 寄宿舍(学生寮)申込方法	45		
13. 奨学金	45		
14. 入学料免除・徴収猶予	46		
15. 授業料免除	46		

添付書類

(推薦入試Ⅰ用・推薦入試Ⅱ用入試用)

- ① 熊本大学入学志願票
[写真票・受験票・住所票付き]
- ② 推薦書
- ③ 志望理由書
(共通様式)
- ④ 検定料払込用紙(成績開示を希望しない者用・成績開示を希望する者用)
- ⑤ 受験票返送用封筒(小)
- ⑥ 出願書類送付用封筒(大)

アドミッション・ポリシー(入学者受入方針)

熊本大学ではこのような人を求めています。

自ら学ぼうとする意欲，物事を多面的に捉えるために必要な幅広い基礎学力，人々と真摯に議論・対話できる能力や協力しあえる社会的能力を備えていることを基本として，本学は次のような人を広く求めます。

- ・人間と自然を愛し，志をもって世界と地域への貢献を目指す人
- ・学問に情熱をもち，自ら柔軟かつ論理的に考える人
- ・行動力に富み，新しい課題に意欲的に取り組める人
- ・広く世界に目を向け，国際舞台で活躍したいと思っている人

～ 各学部学科・課程のアドミッション・ポリシー ～

文学部

〈総合人間学科〉

本学科では，現代における人間のあり方や社会のあり方を，「人間」「社会」「地域」という三つの角度から，論理的に考えたり，実験によって分析したり，大学の外に出て調査や実習をしたりしながら学んでいきます。それによって，現代社会や現代に生きる人々が直面するさまざまな問題をどのように分析したらよいのか，そしてそれに対処するにはどのようにしたらよいのかを自分自身で考え，その考えに基づいて行動できる能力を育むことを目標としています。以上のような観点から，本学科は次のような人を求めています。

1. 人間や人間関係への関心と探求心をもち，人間に関わる問題に実際に取り組んでいきたいと考えている人
2. 現代社会のかかえる諸問題や日本及び世界各地の社会や文化に関心をもち，それらを自分で分析する力をつけたいと考えている人
3. 地域社会や地域文化に関心をもっていて，それらがかかえる問題に実際に取り組んでいきたいと考えている人

〈歴史学科〉

本学科の教育理念は，自らの生きる「現実」との緊張関係の中で「過去」の歴史を読み解き，混迷する現代社会にあって，常に「人間」や「社会」，そして「時代」の本質を根底から思考する能力をもった人材を育成することにあります。こうした観点から本学科は，次のような人を求めています。

1. 歴史を学ぶことを通じて，「人間」の本質と可能性を探究し，新しい時代と社会を切り開いていこうとする意欲をもった人
2. 国際交流や国際協力等の実践的活動に関心をもち，歴史という長期的視点から，異文化社会の本質を理解したいと考えている人
3. 遺跡発掘調査や史料解読といった高度の技能を身につけ，より高い専門性をもって，文化財行政や歴史教育に携りたいと考えている人

〈文学科〉

本学科は，言語及び文学をはじめとするさまざまな言語文化を研究し学ぶ学科です。あるいは，言語と文化を生み育ててきた人間の諸活動の考察を通して，人間の「生」のありようを研究する学科であるとも言えるでしょう。そのような視点から本学科では，日本語を含む多様な言語の習得を目指すとともに，鋭い感受性，柔軟な思考力，論理的な理解力を持ち，私たちを取り巻くさまざまな事象を適切に分析し，明快に表現できる人材を育成していきたいと考えています。以上のような観点から，本学科は次のような学

生を求めています。

1. 日本を含むいろいろな国の言語、文学、文化に強い関心を持ち、それらを学ぶことを通して人類の文化や現代社会に対する理解を深めたいと考えている人
2. 英語をはじめとする外国語の運用能力と異文化を正しく理解する能力を身に付け、国際的な舞台上で活動したいと考えている人
3. 言語や文学に対する幅広い知識と的確な分析・表現能力を活かし教育・研究の仕事に従事したいと考えている人

〈コミュニケーション情報学科〉

本学科では、高度な実践的英語力と情報コミュニケーション能力・スキルを習得して、高度情報社会で求められている、実践で力を発揮する情報コミュニケーションのエキスパート兼リーダーを養成したいと考えています。一人一人の学生が、自ら問題を発見し、自分の頭で知恵をしぼり、言葉を紡ぎ、自主独立でありながらも他人を尊び、そして、互いに協力してアイデアを形にしていく教育を目指します。このような観点から、本学科では次のような人を求めます。

1. 理論だけでなく、自らの体験を通して、新聞・放送・広告といったマスメディア、インターネットに代表される情報技術のしくみと運用など、コミュニケーションと情報に関するさまざまな事象について考えたい人
2. オーラルコミュニケーションを中心に、英語によるディスカッションやディベート等に対応できる高いレベルの実践的英語運用能力を習得したい人

教育学部

〈小学校教員養成課程〉

小学校教員養成課程は、児童の人間形成にとって重要な小学校教育を担う教員の養成を目的としています。小学校教育に関わる教科専門の指導力及び生活指導や教育方法等の教職専門の理論と技術を修得し、地域的及び国際的な視野を持ち、豊かな人間性と高度の実践的指導力を備えた小学校教員の養成を目標としています。

以上のような人材養成の観点から、小学校教員養成課程では、次のような人を広く求めます。

1. 小学校教員を目指す強い意志と情熱を持ち、教育に関わる諸問題解決に真摯で意欲的な取り組みができる人
2. 自ら学ぼうとする学習意欲があり、高等学校までの教科（例えば国語・数学・外国語等）の基礎的知識・技能を活用して問題を解決できる能力を持つ人
3. 子どもに対する愛情と豊かな人間性を備えている人
4. 必要に応じたコミュニケーション能力や協調性を備えている人
5. 他者への思いやりを持ち、ボランティア活動等に強い関心を有する人

小学校教員養成課程では、大学入学までに身につけておくことが期待される資質・能力として、子どもと教育に対する幅広い関心と情熱、論理的思考力を重視しています。

〈中学校教員養成課程〉

中学校教員養成課程は、生徒の人間形成にとって重要な中学校教育を担う教員の養成を目的としています。中学校教育に関わる各教科の専門的指導力及び生活指導や教育方法等の教職専門の理論と技術を修得し、地域的及び国際的な視野を持ち、豊かな人間性と高度の実践的指導力を備えた教員の養成を目標としています。

以上のような人材養成の観点から、中学校教員養成課程では、次のような人を広く求めます。

1. 中学校教員を目指す明確な意志と情熱を持ち、教育に関わる諸問題解決に真摯で意欲的な取り組みができる人
2. 自ら学ぼうとする学習意欲があり、高等学校までの教科（例えば国語・数学・外国語等）の基礎的知識・技能を活用して問題を解決できる能力を持つ人
3. 子どもに対する愛情と豊かな人間性を備えている人
4. 必要に応じたコミュニケーション能力や協調性を備えている人
5. 他者への思いやりを持ち、ボランティア活動等に強い関心を有する人

中学校教員養成課程では、大学入学までに身につけておくことが期待される資質・能力として、子どもと教育に対する幅広い関心と情熱、論理的思考力を重視しています。

〈特別支援教育教員養成課程〉

特別支援教育教員養成課程は、障がいのある児童・生徒の発達の支援という専門的な役割を担う教員の養成を目的としています。特別支援教育に関わる専門科目及び生活指導や教育方法等の教職専門の理論と技術を修得し、地域的及び国際的な視野を持ち、豊かな人間性と高度の実践的指導力を備えた教員の養成を目標としています。

以上のような人材養成の観点から、特別支援教育教員養成課程では、次のような人を広く求めます。

1. 特別支援学校や小・中学校等において、特別な支援を必要とする子どもの教育を担う教員を目指す強い意志と情熱を持ち、特別支援教育への関心と意欲を有する人
2. 自ら学ぼうとする学習意欲があり、高等学校までの教科（例えば国語・数学・外国語等）の基礎的知識・技能を活用して問題を解決できる能力を持つ人
3. 特別な支援を必要とする子どもに対する愛情と豊かな人間性を備えている人
4. 必要に応じたコミュニケーション能力や協調性を備えている人
5. 他者への思いやりを持ち、ボランティア活動等に強い関心を有する人

特別支援教育教員養成課程では、大学入学までに身につけておくことが期待される資質・能力として、子どもと教育に対する幅広い関心と情熱、論理的思考力を重視しています。

〈養護教諭養成課程〉

養護教諭養成課程は、児童・生徒の心や体の健康支援という専門的な役割を担う教員の養成を目的としています。養護教育に関わる専門科目及び生活指導や教育方法等の教職専門の理論と技術を修得し、地域的及び国際的な視野を持ち、豊かな人間性と高度の実践的指導力を備えた教員の養成を目標としています。以上のような人材養成の観点から、養護教諭養成課程では、次のような人を広く求めます。

1. 養護教諭を目指す強い意志と情熱を持ち、子どもの心身の健康問題や養護教育への関心と意欲を有する人
2. 自ら学ぼうとする学習意欲があり、高等学校までの教科（例えば国語・数学・外国語等）の基礎的知識・技能を活用して問題を解決できる能力を持つ人
3. 子どもに対する愛情と豊かな人間性を備えている人
4. 必要に応じたコミュニケーション能力や協調性を備えている人
5. 他者への思いやりを持ち、ボランティア活動等に強い関心を有する人

養護教諭養成課程では、大学入学までに身につけておくことが期待される資質・能力として、子どもと教育に対する幅広い関心と情熱、論理的思考力を重視しています。

法学部

地方中核大学の法学部として情報化・国際化・高齢化などが進む21世紀において地域社会・国際社会に貢献できる個性ある学部づくりを目指す本学部は、4年一貫の少人数教育を重視するとともに、学生の主体的・積極的な学習を大切にするとともにカリキュラムを提供しています。

このような観点から、本学部は、次のような能力・資質をもった人を求めています。

1. 法学・政治学・経済学を学ぶ上で必要となる中等教育についての幅広い基礎学力をもっている人
2. 他者・社会・公共への関心をもち、他人の異なった意見に謙虚に耳を傾ける人
3. 自分の頭で柔軟かつ論理的にものを考え、率直に議論・対話できる人
4. 公正・公平を追求する心、地域的および国際的な感覚をもっている人
5. 社会や公共、とりわけ自らが生まれ育ち又は生活する地域社会における諸問題に対して、広範な知見の収集、他者との議論や対話を通じて解決策の提示を行う意欲のある人

法学部では幅広い基礎学力に関して、以下のように考えています。

法学部の教育目的は「社会に生起する具体的問題を解決しうる基礎的能力を育成する」ことにあります。現代社会は多様で複雑であり、そこに生起する問題もまた多様で複雑です。入学後そのような諸問題に対する関心を有し深めてゆくには、高校段階で受験科目かどうかにかかわらず、文系科目全般をはじめ理系科目や実技系科目などにも興味を有していることが望まれます。

医学部

〈医学科〉

医学部医学科では、「豊かな人間性と高い倫理観を持ち、医学およびその関連領域における社会的な

使命を追及、達成しうる人物を育てるために、科学的で独創性に富む思考力を涵養すると共に、医師として必要な基本的知識、技量を修得させ、生涯にわたって自己研鑽を積むことのできる人材教育を実施すること」を教育目標としています。このような教育目標を達成するために、医学部医学科では、次のような人を求めています。

1. 病める人たちやその家族の気持ちを理解できる豊かな人間性を持つ人
2. チーム医療の中心的役割を果たすための優れた協調性と高い倫理観を持つ人
3. 地域医療に関心を持ち、地域住民の健康増進に貢献する意欲を持つ人
4. 科学的探究心が旺盛で、国際的視野で医科学研究を展開する意欲に溢れる人
5. 社会に対する幅広い視野を有し、地域や国際社会における保健医療や福祉に深い関心を持つ人
6. 日々進歩する医学や医療の最新知識を吸収できる基礎学力を持ち、生涯にわたって自己学習を継続できる人

〈保健学科〉

保健学（看護学、放射線技術科学、検査技術科学）の発展を担い、広く社会に貢献できる資質の高い医療者・研究者・教育者を育成するために、保健学科では次のような人を求めています。

1. 看護職（看護師、保健師、助産師）並びに診療放射線技師、臨床検査技師という職業に魅力を感じ、それらの職業に携わる熱意のある人
2. 人間に対する尊厳の念を持ち人間愛に満ちた協調性豊かな人で、多様な価値観を受け入れる寛容さを持ち、患者や家族の気持ちや考えを理解でき、倫理観とマナーを育んでいける人
3. 高等学校までの履修科目の基礎事項を理解した上で国語、外国語とともに2科目以上の理科（生物、化学、物理）において優れた学力を有する人
4. 高等学校までに自らの目標に基づいて取り組んだ経験やクラブ活動あるいは生徒会活動、ボランティア活動等の経験を有し、様々な社会環境を受け入れることができる豊かな人間性を持った人
5. 専門分野の知識や技術に興味・関心を持って学び、実験や臨地実習にも真摯な態度で自らの課題を設定して問題解決し、新しい分野にも積極的に取り組んでいくフロンティア精神を持った人
6. チーム医療の一員としてお互いの仕事を尊重しつつ協同的に働き、専門分野における役割・機能の責務を果たし、指導性を育んでいける人
7. 科学的探求心と積極的学習意欲を備え、学部卒業後は専門職業人や教育者・研究者としての能力を高め、指導的立場に立って社会貢献しようという意欲のある人
8. 専門分野において地域貢献するとともに、国際的な広い視野で物事を考え、活躍する意欲のある人

薬学部

薬学部の理念・目標に沿った教育を行い、将来の薬学を担う人材を育成するため、薬学部では次のような人を求めています。

〈薬学科〉

1. “薬剤師”という職業に魅力を感じ、自らその仕事に携わりたいという希望や意欲を有する人
2. 薬剤師として患者様の気持ちや考えを理解できるように人間愛や倫理観を育んでいける人
3. 高等学校までの履修科目の基礎事項を理解し、その上で、化学、物理、生物の一つあるいは複数の科目において特に優れた力を有する人
4. 情報収集、情報発信、コミュニケーションの手段としての情報科学や外国語能力の向上のための努力を持続できる人
5. 医療人としてのマナーや協調性を育んでいける人
6. 高等学校までにクラブ活動、生徒会活動およびボランティア活動など様々な活動に参加したり、あるいは自らの目標や考えの基に何かに取り組んだり、趣味を楽しんだりした経験を有する人
7. 学部卒業後は大学院に進学し、臨床薬学の研究者など薬学の様々な領域で指導的立場に立って社会に貢献しようという意欲を有する人

〈創薬・生命薬科学科〉

1. “研究”や“開発”に魅力を感じ、自らそのような仕事に携わりたいという希望や意欲を有する人
2. 困難に遭遇してもそれを克服する精神力と体力を育んでいける人

3. 高等学校までの履修科目の基礎事項を理解し、その上で、化学、物理、生物の一つあるいは複数の科目において特に優れた力を有する人
4. 情報収集、情報発信、コミュニケーションの手段としての情報科学や外国語能力の向上のための努力を持続できる人
5. 研究者、開発担当者としての倫理観を育んでいける人
6. 高等学校までにクラブ活動、生徒会活動およびボランティア活動など様々な活動に参加したり、あるいは自らの目標や考えの基に何かに取り組んだり、趣味を楽しんだりした経験を有する人
7. 学部卒業後は大学院に進学し、創薬や生命薬科学を通して社会に貢献しようという意欲を有している人

工学部

工学部は、人間社会と地球環境との共生を目指す工学を創成することで、社会の持続的な発展を技術的に支え、専門技術の研究成果や社会と科学技術との係りについて幅広い知識と深い理解を持った、積極的で人間性豊かな人材を養成することを教育の理念とし、次のような人を求めます。

1. 明確な目標を持って自ら学び、自分の能力向上を図る意欲を持ち、工学を学習するのに必要な基礎学力と、グループ内で自分の役割を果たせる社会性やコミュニケーションの基本的な能力を備えている人
2. 人類の幸福・福祉や自然との共生に関心を持ち、そこでの問題解決へ工学を応用する意欲を持っている人
3. 柔軟で幅広い知識とその展開能力を備え、国際的に活躍できる技術者・研究者となる意欲を持っている人
4. 物質の創製、設計、製造、およびシステムの構築など、人工物の発展・創製に意欲を持っている人

〈物質生命化学科〉

物質生命化学科は、物質化学と生命化学を融合させた幅広い知識と高い問題解決能力を持ち、同時に人間としての倫理観を持ち、21世紀の社会における環境、資源、エネルギーなどの課題を化学的立場から解決できる技術者・研究者の養成を目標にしています。以上のような観点から、本学科は次のような人を求めます。

1. 化学に関する“研究”や“開発”に魅力を感じ、自らがそれらに関連する仕事に携わりたいという希望や意欲を持った人
2. 困難に遭遇してもそれを解決するための精神力、体力を持った人
3. 高等学校までの履修科目の基礎事項を理解し、その上で、「化学」において優れた理解力を有する人
4. 情報収集、情報発信、コミュニケーションの手段としての情報科学や外国語能力の向上の努力を続けることが可能で、国際的に活躍できる技術者・研究者となる意欲を持っている人
5. 高等学校までにクラブ活動や生徒会活動、ボランティア活動などに積極的に参加した経験を有する人
6. 人としての倫理観を持ち、研究者、開発担当として社会に貢献しようという意欲を持った人

〈マテリアル工学科〉

マテリアル工学は、材料（マテリアル）を原子レベルから理解して新しい材料やリサイクルを含む先進的な製造技術を開発する工学です。材料はすべての産業の基盤です。マテリアル工学科では、新材料の開発によって、人間社会と自然環境が調和しながら発展していくことのできる産業のしくみを、基盤から築いていきたいと考えています。そのために次のような人材を求めます。

1. マテリアルに科学的興味を持っていて、マテリアル工学を通じて自然環境と調和した安全安心な社会を構築することに意欲を持っている人
2. マテリアルの構造や性質、製造技術に関する専門的な知識を身につけて、新材料の開発に携わる技術者として活躍したい人
3. 幅広い教養を持ち、国際的に活躍できるマテリアル工学技術者となることを目指している人
4. 高等学校までの履修科目の基礎事項を理解し、特に数学、物理、化学のいずれかあるいは複数の科目において優れた理解力と応用力を有する人

5. 自ら課題を発見し、計画を立てて学習する意欲のある人

〈機械システム工学科〉

機械システム工学科は、もの作りの基幹技術である機械工学を幅広い問題の解決に活かせる技術者、研究者の育成を目指して、次のような人を求めています。

1. 人間の幸福、人間と環境の融和に対する問題意識を持ち、そこにある課題とももの作りの係りについて強い関心を持つ人
2. 国際的な視野と優れた表現力やコミュニケーション能力を身に付け、リーダーシップと行動力を発揮する技術者となることを目指している人
3. 自ら課題を発見し、計画を立てて学習し、問題解決を目指すことができる人
4. 機械工学の専門知識だけでなく幅広い教養を身に付け、新時代のもの作りに創造的に係る技術者になる意欲を持つ人
5. 機械システムの開発や機械技術の応用・活用に興味があり、独創的な発想を以て技術革新に貢献しようとする人
6. 高等学校までの履修科目の基礎事項を理解し、その上で特に数学、物理、化学のいずれかあるいは複数の科目において特に優れた力を有する人

〈社会環境工学科〉

社会環境工学科では、自然環境や地域社会との共生を図りながら、道路、橋、河川、空港、港湾などの社会基盤を設計・建設・保全・利活用する分野、並びに安全・安心で魅力的な都市や地域を計画・デザインする分野で幅広く活躍することができる人材の育成を目指します。

この目標から、本学科は次のような人を求めます。

1. 環境と共生を図る社会基盤づくりや、安全で魅力的な街をつくる地域防災に興味を持ち、技術者として倫理観を育てられる人
2. まちづくりやものづくりなどによって地域社会の発展に貢献する意欲がある人
3. 好奇心、探求心、向学心をもってものごとに接し、様々な人と協働して課題に取り組むための協調性を育てられる人
4. 高等学校までの履修科目の基礎事項を理解し、数学、物理、化学、あるいは情報処理に関する知識を柔軟に応用し、独創的な思考力をもって自ら考え、行動できる人
5. 情報収集、情報発信、コミュニケーションの手段としての情報科学や外国語能力の向上のための努力を持続できる人

〈建築学科〉

建築は、人間生活の全てに係るものです。したがって理系と文系の領域を合わせもつ建築という学問分野を統合的に把握する能力とバランス感覚を持ち、快適性、安全性、利便性、環境調和性、芸術性などを総合的に考慮しながら、魅力的で持続可能な建築や都市を創造できる人材を養成することを目標に、本学科は次のような人を求めます。

1. 建築や都市という形のあるものを創り出すこと、それを実現するための技術に対する興味と意欲のある人
2. 人間生活の場である建築や都市環境について深い興味を持ち、その問題を解決するために幅広い知識と技術を修得しようとする意欲のある人
3. 歴史や語学、音楽などを含めた高等学校までの履修科目の基礎事項を理解し、数学、理科、英語については応用力がある人
4. 建築の知識と技術を修得することによって、将来は人間生活と社会の向上のために尽力しようとする意欲のある人

〈情報電気電子工学科〉

情報電気電子工学科は、情報電気電子分野に関する深い専門知識を備え、それらの各領域相互の関連性ならびに人間と環境との係りを総合的に理解して、その専門技術を人類の福祉に供することのできる豊かな創造力を備えた技術者・研究者の養成を目的とした学科です。

以上のような観点から、本学科は次のような人を求めます。

1. 情報・電気・電子分野に関する基礎的理論や技術・技能に関心を持ち、積極的かつ自発的な学習・研究意欲を有している人
2. 工学的な課題解決能力を身につけ、それによって社会に貢献しようと考えている人

3. 豊かな好奇心と創造性をもって、高度情報化社会をリードする意欲を有している人

〈数理工学科〉

数理工学科は、数学と工学との相互の関連性を深く総合的に理解し、それらの専門知識の融合を図り、社会に貢献できる技術者・教育者・研究者を育成することを目的としています。

以上の観点から、本学科では次のような人を求めます。

1. 科学技術に関心を持ち、積極的かつ自発的な学習意欲を有する人
2. 現代社会に現れる様々な問題に対して、数学的方法による問題解決能力を身につけ、それにより社会に貢献しようと考えている人
3. 数学が好きで、その実社会への応用に興味を有する人
4. 高等学校で習う数学の内容を十分に理解し身につけている人

募集人員・出願方法

本学では、特別入試として学校長（出願要件を満たす教育施設）の推薦に基づき、入学定員の一部について、次のとおり入学者選抜を実施します。

募集人員

学 部	学 科 ・ 課 程 ・ 専 攻		募 集 人 員				
			推薦入試 I		推薦入試 II		
文 学 部	総 合 人 間 学 科		9		—		
	歴 史 学 科		4				
	文 学 学 科		5				
	コミュニケーション情報学科		4				
教育学部	小 学 校 教 員 養 成 課 程				20		
	中 学 校 教 員 養 成 課 程	理 科	—		5		
		技 術			2		
		家 庭			2		
	特 別 支 援 教 育 教 員 養 成 課 程				6		
養 護 教 諭 養 成 課 程				8			
法 学 部	法 学 学 科		20		—		
医 学 部	医 学 学 科				(一般) 15	(地域) 5	
	保 健 学 科	看 護 学 専 攻	—		12		
		放 射 線 技 術 科 学 専 攻			4		
		検 査 技 術 科 学 専 攻			5		
薬 学 部	薬 学 学 科		—		10		
	創 薬 ・ 生 命 薬 科 学 科				10		
工 学 部	物 質 生 命 化 学 科		5		(ア)	(イ) 各学科 若干名	
	マ テ リ ア ル 工 学 科		4				15
	機 械 シ ス テ ム 工 学 科		5 ※				5
	社 会 環 境 工 学 科		3				15
	建 築 学 科		—				14
	情 報 電 気 電 子 工 学 科		4				12
	数 理 工 学 科		—				28
				2			
合 計			63		195		

推薦入試 I ※工学部機械システム工学科の推薦入試 I は女子対象です。

推薦入試 II 教育学部中学校教員養成課程（技術）の募集人員2名は、職業教育（工業系）を主とする専門高校（学科）又は職業教育（工業系）を主とする総合学科の出身者を対象としています。
工学部（イ）の募集人員若干名は、工学部（ア）の募集人員の枠内とし、職業教育を主とする専門高校（学科）及び総合学科の出身者を対象としています。

出願方法

国公立大学（※独自日程で入学者選抜試験を行う公立大学・学部を除く。以下同じ）の推薦入試（大学入試センター試験を課す選抜，課さない選抜を含めて）へ出願できるのは一つの大学・学部・学科です。

したがって，本学の推薦入試に出願した者は，他の国公立大学が実施する推薦入試に出願することはできません。

※公立大学協会ウェブサイト (<http://www.kodaikyo.org/nyushi>) 参照

推薦入試 I

(大学入試センター試験を課さない)

文 学 部

法 学 部

工 学 部

(物質生命化学科, マテリアル工学科, 機械システム工学科[※],
社会環境工学科, 情報電気電子工学科)

※ は女子対象

1. 文 学 部

1. 募集人員

総合人間学科	9人
歴史学科	4人
文学科	5人
コミュニケーション情報学科	4人

2. 推薦の要件

推薦人員は、各学科とも、一つの学校から1人とします。

志望学科への入学の意志が強固な者で、次の(1)～(3)のすべての要件を満たす者

(1) 次のいずれかに該当する者

- ① 高等学校（特別支援学校の高等部を含む。）又は中等教育学校を平成29年3月卒業見込みの者（平成28年度中に卒業を認められる者を含む。）
- ② 高等専門学校の第3学年を平成29年3月修了見込みの者
- ③ 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定又は指定した在外教育施設の当該課程を平成29年3月修了見込みの者（平成28年度中に修了を認められる者を含む。）

(2) 上記(1)の教育施設における全体の評定平均値が4.0以上であって、人物・能力及び適性等について当該学校長が責任をもって推薦できる者

(3) 合格した場合、入学することを確約できる者

3. 選抜方法

推薦書、調査書、志望理由書及び小論文、面接の成績により総合的に判定します。

4. 評価基準・配点

【小論文】

課題に対する論理的思考力及び自分の考えを伝える表現力等を評価・採点します。

【面接】

勉強意欲、志望動機を中心に、複数の面接官による個人面接（総合人間学科・文学科）あるいは集団面接（歴史学科・コミュニケーション情報学科）を実施します。

なお、推薦書、調査書、志望理由書の評価も含まれます。

【配点】

学 科	区 分	個別学力検査等		合計
		小論文	面接	
総合人間学科		100	150	250
歴史学科		100	150	250
文学科		100	150	250
コミュニケーション情報学科		100	150	250

5. 合否判定基準

総得点の高い順に合格者を決定します。

6. 試験日時等

- (1) 日 時 平成 28 年 11 月 19 日(土)
小論文 10 時から 11 時 30 分 (90 分)
面 接 13 時から
- (2) 試験場 熊本大学文学部 熊本市中央区黒髪 2 丁目 40 番 1 号

※ 本学から交付の受験票（推薦入試 I 用）を持参してください。

[本件に関する問合せ先]

熊本大学人文社会科学系事務課文学部教務担当 電話：096－342－2317

2. 法 学 部

1. 募集人員

法 学 科 20 人

2. 推薦の要件

推薦人員は、一つの学校から1人とします。

本学部への入学の意志が強固な者で、次の(1)～(3)のすべての要件を満たす者

(1) 次のいずれかに該当する者

- ① 高等学校（特別支援学校の高等部を含む。）又は中等教育学校を平成29年3月卒業見込みの者（平成28年度中に卒業を認められる者を含む。）
- ② 高等専門学校の第3学年を平成29年3月修了見込みの者
- ③ 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定又は指定した在外教育施設の当該課程を平成29年3月修了見込みの者（平成28年度中に修了を認められる者を含む。）

(2) 学業・人物ともに優れており、かつ、人間社会に対する関心が強く、様々な問題を社会的観点から分析・解決していこうとする熱意と意欲をもつ人物として、当該学校長が責任をもって推薦できる者

(3) 合格した場合、入学することを確約できる者

3. 選抜方法

推薦書、調査書、志望理由書及び面接の成績により総合的に判定します。

面接では、配付資料を読んだ後、集団討論を行います。

4. 評価基準・配点

【面 接】

配付資料を題材とする集団討論によりアドミッション・ポリシーに沿った能力をもっているかどうかを評価します。

【配 点】

学 科	区 分	個別学力検査等	合 計
		面 接	
法 学 科		100	100

(注) 推薦書、志望理由書及び調査書は、A、B、Cの3段階評価を行います。

5. 合否判定基準

面接は70点以上、推薦書、志望理由書及び調査書はA又はB評価を得た者の中から、面接点の高い順に合格者を決定します。

6. 試験日時等

- (1) 日 時 平成 28 年 11 月 19 日(土)
面 接 12 時から (1 グループ 40 分)
- (2) 試験場 熊本大学全学教育棟 熊本市中央区黒髪 2 丁目 40 番 1 号

※ 本学から交付の受験票（推薦入試 I 用）を持参してください。

[本件に関する問合せ先]

熊本大学人文社会科学系事務課法学部・法曹教務担当 電話：096－342－2318

3. 工 学 部

1. 募集人員

物質生命化学科	5人
マテリアル工学科	4人
機械システム工学科	5人（女子対象）
社会環境工学科	3人
情報電気電子工学科	4人

2. 推薦の要件

○物質生命化学科

志望学科への入学の意志が強固な者で、次の(1)～(4)のすべての要件を満たし、(5)のi)～iii)のうちいずれか1項目以上に該当する者

(1) 次のいずれかに該当する者

- ① 高等学校（特別支援学校の高等部を含む。）又は中等教育学校を平成29年3月卒業見込みの者（平成28年度中に卒業を認められる者を含む。）
- ② 高等専門学校の第3学年を平成29年3月修了見込みの者
- ③ 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定又は指定した在外教育施設の当該課程を平成29年3月修了見込みの者（平成28年度中に修了を認められる者を含む。）

(2) 当該学校長が責任をもって推薦できる者

(3) 合格した場合、入学することを確約できる者

(4) 卒業時又は修了時において、化学基礎・化学を履修した者
又は、上記の科目に相当する内容を履修した者

(5) i) 上記(1)の教育施設における全体の評定平均値が4.3以上の者

ii) スーパーサイエンスハイスクール指定校の者で、大学、官公庁及び企業等の研究機関において研究又は実験を行ったことのある者（それを証明する客観的資料があれば適宜添付のこと）

iii) 化学オリンピックや数学オリンピックなどの科学系コンテストで入賞し、その成果が高く評価されている者（それを証明する客観的資料があれば適宜添付のこと）

○マテリアル工学科

志望学科への入学の意志が強固な者で、次の(1)～(5)のすべての要件を満たす者

(1) 次のいずれかに該当する者

- ① 高等学校（特別支援学校の高等部を含む。）又は中等教育学校を平成29年3月卒業見込みの者（平成28年度中に卒業を認められる者を含む。）
- ② 高等専門学校の第3学年を平成29年3月修了見込みの者
- ③ 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定又は指定した在外教育施設の当該課程を平成29年3月修了見込みの者（平成28年度中に修了を認められる者を含む。）

(2) 当該学校長が責任をもって推薦できる者

(3) 合格した場合、入学することを確約できる者

(4) 卒業時又は修了時において、化学基礎・化学と物理基礎・物理を履修した者
又は、上記の科目に相当する内容を履修した者

(5) 上記(1)の教育施設における全体の評定平均値が4.3以上の者

○機械システム工学科

志望学科への入学の意志が強固な者で、次の(1)～(5)のすべての要件を満たす女子

- (1) 次のいずれかに該当する者
 - ① 高等学校（特別支援学校の高等部を含む。）又は中等教育学校を平成 29 年 3 月卒業見込みの者（平成 28 年度中に卒業を認められる者を含む。）
 - ② 高等専門学校の第 3 学年を平成 29 年 3 月修了見込みの者
 - ③ 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定又は指定した在外教育施設の当該課程を平成 29 年 3 月修了見込みの者（平成 28 年度中に修了を認められる者を含む。）
- (2) 当該学校長が責任をもって推薦できる者
- (3) 合格した場合、入学することを確約できる者
- (4) 卒業時又は修了時において、数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・B、物理基礎・物理と化学基礎・化学を履修した者
- (5) 上記（1）の教育施設における全体の評定平均値が 4.3 以上の者

○社会環境工学科

志望学科への入学の意志が強固な者で、次の(1)～(5)のすべての要件を満たす者

- (1) 次のいずれかに該当する者
 - ① 高等学校（特別支援学校の高等部を含む。）又は中等教育学校を平成 29 年 3 月卒業見込みの者（平成 28 年度中に卒業を認められる者を含む。）
 - ② 高等専門学校の第 3 学年を平成 29 年 3 月修了見込みの者
 - ③ 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定又は指定した在外教育施設の当該課程を平成 29 年 3 月修了見込みの者（平成 28 年度中に修了を認められる者を含む。）
- (2) 当該学校長が責任をもって推薦できる者
- (3) 合格した場合、入学することを確約できる者
- (4) 卒業時又は修了時において、物理基礎・物理と化学基礎・化学、あるいは物理基礎・物理と生物基礎・生物を履修した者
又は、上記の科目に相当する内容を履修した者
- (5) 上記（1）の教育施設における全体の評定平均値が 4.3 以上の者

○情報電気電子工学科

志望学科への入学の意志が強固な者で、次の(1)～(5)のすべての要件を満たす者

- (1) 次のいずれかに該当する者
 - ① 高等学校（特別支援学校の高等部を含む。）又は中等教育学校を平成 29 年 3 月卒業見込みの者（平成 28 年度中に卒業を認められる者を含む。）
 - ② 高等専門学校の第 3 学年を平成 29 年 3 月修了見込みの者
 - ③ 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定又は指定した在外教育施設の当該課程を平成 29 年 3 月修了見込みの者（平成 28 年度中に修了を認められる者を含む。）
- (2) 当該学校長が責任をもって推薦できる者
- (3) 合格した場合、入学することを確約できる者
- (4) 卒業時又は修了時において、数学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・A・B及び物理基礎・物理を履修し、さらに化学基礎・化学あるいは生物基礎・生物あるいは地学基礎・地学を履修した者
又は、上記の科目に相当する内容を履修した者
- (5) 上記（1）の教育施設における全体の評定平均値が 4.3 以上の者

推薦入試Ⅰ及び推薦入試Ⅱの両方を実施する工学部の学科は、推薦入試Ⅰの不合格者を、推薦入試Ⅰと同一の学科の推薦入試Ⅱ（大学入試センター試験を課す）の被推薦者とすることを認めます。

3. 選抜方法

第1次選抜と第2次選抜を行います。

(1) 第1次選抜

出願書類（推薦書，調査書，志望理由書）により判定し，平成28年11月11日（金）に，次のとおり発表します。

- ① 合格者には，第2次選抜の受験票を送付します。
- ② 不合格者には，その旨通知し，併せて37ページ検定料欄に記載の入学検定料の返還方法について通知します。
- ③ 当該学校長宛へ選考結果を通知します。

(2) 第2次選抜

第1次選抜の合格者に対して面接を行い，調査書及び面接の成績により総合的に判定します。

なお，社会環境工学科を除く以下の学科では，口頭試問が含まれます。

- ① 物質生命化学科
面接では，化学分野及び英語に関する口頭試問を行い，思考力や関心度を問います。
- ② マテリアル工学科
面接では，数学分野，物理分野もしくは化学分野に関する口頭試問を行い，科学的思考力や関心度を問います。
- ③ 機械システム工学科
面接では，数学分野及び物理分野に関する口頭試問を行います。また，大学での勉学に対する意欲をみます。
- ④ 情報電気電子工学科
面接では，数学分野及び物理分野に関する口頭試問を行い，思考力や関心度を問います。

(注) 出題範囲は次のとおりとします。数学分野（数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B），物理分野（物理基礎・物理），化学分野（化学基礎・化学）

4. 評価基準・配点

(1) 第1次選抜

学業成績，資格取得状況，就学状況，クラブ活動やボランティア活動などの社会的活動及び志望学科に対する意欲・適性等をみます。

(2) 第2次選抜

【面接】

志望の具体的な動機や目的，志望学科に関わる専門分野への関心や知識，高等学校における活動状況などを尋ね，表現力，積極性，勉学意欲などの観点からアドミッション・ポリシーへの適合性についてみます。また，物質生命化学科，マテリアル工学科，機械システム工学科，情報電気電子工学科では，口頭試問の結果も評価します。個人面接を実施します。

【配 点】

学 科	区 分	個別学力検査等	合 計
		面 接	
物質生命化学科		200	200
マテリアル工学科		200	200
機械システム工学科		200	200
社会環境工学科		200	200
情報電気電子工学科		200	200

口頭試問の点数は面接点に含みます。

5. 合否判定基準

総得点の高い順に合格者を決定します。

6. 試験日時（第2次選抜）等

(1) 日 時 平成28年11月19日（土）集合時間 13時

(2) 試験場 熊本大学工学部 熊本市中央区黒髪2丁目39番1号

※ 本学から交付の受験票（推薦入試I用）を持参してください。

[本件に関する問合せ先]

熊本大学自然科学系事務課工学部教務担当 電話：096-342-3522

推薦入試Ⅱ

(大学入試センター試験を課す)

教育学部

(小学校教員養成課程,
中学校教員養成課程,
特別支援教育教員養成課程,
養護教諭養成課程)

医学部

薬学部

工学部

1. 教 育 学 部

1. 募集人員

小学校教員養成課程		20 人
中学校教員養成課程	理 科	5 人
	技 術	2 人
	家 庭	2 人
特別支援教育教員養成課程		6 人
養護教諭養成課程		8 人

2. 推薦の要件

○小学校教員養成課程, 中学校教員養成課程（家庭）, 特別支援教育教員養成課程

志望課程（専攻）への入学の意志が強固な者で、次の(1)～(4)のすべての要件を満たす者

(1) 次のいずれかに該当する者

- ① 高等学校（特別支援学校の高等部を含む。）又は中等教育学校を平成 28 年 3 月以降に卒業した者又は平成 29 年 3 月卒業見込みの者
- ② 高等専門学校の第 3 学年を平成 29 年 3 月修了見込みの者
- ③ 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定又は指定した在外教育施設の当該課程を修了した者又は平成 29 年 3 月修了見込みの者

(2) 上記(1)の教育施設における全体の評定平均値が 3.7 以上であって、人物・能力及び適性等について当該学校長が責任をもって推薦できる者

(3) 平成 29 年度大学入試センター試験の(5 教科又は 6 教科 7 科目以上)又は(5 教科又は 6 教科 8 科目以上)（3. 選抜方法参照）を受験した者

(4) 合格した場合、入学することを確約できる者

○中学校教員養成課程（理科）, 養護教諭養成課程

志望課程（専攻）への入学の意志が強固な者で、次の(1)～(4)のすべての要件を満たす者

(1) 次のいずれかに該当する者

- ① 高等学校（特別支援学校の高等部を含む。）又は中等教育学校を平成 28 年 3 月以降に卒業した者又は平成 29 年 3 月卒業見込みの者
- ② 高等専門学校の第 3 学年を平成 29 年 3 月修了見込みの者
- ③ 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定又は指定した在外教育施設の当該課程を修了した者又は平成 29 年 3 月修了見込みの者

(2) 上記(1)の教育施設における全体の評定平均値が 4.0 以上であって、人物・能力及び適性等について当該学校長が責任をもって推薦できる者

(3) 平成 29 年度大学入試センター試験の(5 教科又は 6 教科 7 科目以上)又は(5 教科又は 6 教科 8 科目以上)（3. 選抜方法参照）を受験した者

(4) 合格した場合、入学することを確約できる者

○中学校教員養成課程（技術）

志望課程（専攻）への入学の意志が強固な者で、次の(1)～(4)のすべての要件を満たす者

(1) 職業教育（工業系）を主とする専門高校（学科）又は職業教育（工業系）を主とする総合学科を平成 28 年 3 月以降に卒業した者又は平成 29 年 3 月卒業見込みの者

(2) 上記(1)の教育施設における全体の評定平均値が 3.7 以上であって、人物・能力及び適性等につ

いて当該学校長が責任をもって推薦できる者

- (3) 平成 29 年度大学入試センター試験の 1 教科 1 科目以上 (3. 選抜方法参照) を受験した者
- (4) 合格した場合、入学することを確約できる者

3. 選抜方法

○小学校教員養成課程，特別支援教育教員養成課程

大学入試センター試験 (5 教科又は 6 教科 7 科目) 又は (5 教科又は 6 教科 8 科目) [次表参照]，推薦書，調査書，志望理由書及び面接の成績により総合的に判定します。

○中学校教員養成課程 (理科，家庭)，養護教諭養成課程

大学入試センター試験 (5 教科又は 6 教科 7 科目) 又は (5 教科又は 6 教科 8 科目) [次表参照]，推薦書，調査書及び面接の成績により総合的に判定します。

○中学校教員養成課程 (技術)

大学入試センター試験 1 教科 1 科目 [次表参照]，推薦書，調査書，志望理由書及び面接の成績により総合的に判定します。

大学入試センター試験で受験を要する教科・科目

課程・教科専攻等	教科・科目
小学校教員養成課程	国 : 国語……1 地歴 : 世 A, 世 B, 日 A, 日 B, } から 1 又は 2 地理 A, 地理 B } から 1 又は 2
中学校教員養成課程	公民 : 現社, 倫, 政経, 倫・政経から 1 数 : 数 I・数 A……1 数 II・数 B, ※簿, ※情報から 1 } 2
理 科	理 : 物理基礎, 化学基礎, 生物基礎, 地学基礎, } から 1 又は 2 物理, 化学, 生物, 地学

家 庭	外 : 英, 独, 仏, 中, 韓から 1 [5 教科又は 6 教科 7 科目] 又は [5 教科又は 6 教科 8 科目]
特別支援教育教員養成課程	*地歴と公民から 1 科目以上, 理科から 1 科目以上とし, これらの教科の中から 3 科目受験すること。 なお, 物理基礎, 化学基礎, 生物基礎, 地学基礎については, 2 科目受験することで「理科 1 科目」受験とする。
養護教諭養成課程	ただし, 中学校教員養成課程 [理科] 志望者については, 地歴と公民から 1 科目及び, 理科の「物理基礎, 化学基礎, 生物基礎, 地学基礎から 2 科目」, 「物理」, 「化学」, 「生物」, 「地学」の 5 つの選択肢から 2 つを受験すること。
中学校教員養成課程	国 : 国語 数 : 数 I・数 A, 数 II・数 B, ※簿, ※情報 } から 1 外 : 英, 独, 仏, 中, 韓 } から 1
技 術	[1 教科 1 科目]

(注) 1. 「地歴」及び「公民」の教科において指定数以上の科目を受験している者の成績は, 第 1 解答科目の成績を採用します。

2. 小学校教員養成課程, 中学校教員養成課程 [理科, 家庭], 特別支援教育教員養成課程及び養護教諭養成課程において, 「理科」の教科について, 基礎を付した科目 (物理基礎, 化学基礎, 生物基礎, 地学基礎) 2 科目と基礎を付していない科目 (物理, 化学, 生物, 地学) 1 科目を受験している者は, 高得点の科目を採用します。「地歴」と「公民」及び「理科」 (基礎を付していない科目) の教科について, 4 科目を受験している者は, 各々の教科の第 1 解答科目を採用し, 第 2 解答科目のうち高得点の科目を採用します。「地歴」と「公民」2 科目と「理科」の基礎を付した科目

2 科目と基礎を付していない科目を受験している者は、「地歴」と「公民」の第 1 解答科目と理科のうち高得点の科目を採用し、「地歴」と「公民」の第 2 解答科目と理科の採用されなかった科目のうち高得点の科目を採用します。（中学校教員養成課程〔理科〕志望者の選考では、理科 2 科目と「地歴」と「公民」の第 1 解答科目を採用します。）また、「理科」においては、同一名称を付した出題科目（例：物理基礎と物理）の選択はできません。基礎を付した科目と基礎を付さない科目において、同一名称を付した出題科目を選択している場合、基礎を付していない科目を「0点」として取り扱います。

中学校教員養成課程〔技術〕において、指定数以上の科目を受験している者の成績は、高得点の科目を採用します。

3. 大学入試センター試験で受験を要する教科・科目欄中※印の科目を選択解答できる者は、出願要件となる教育施設においてこれらの科目を履修した者に限ります。

4. 評価基準・配点

【面接】

① 小学校教員養成課程

出願書類（調査書、推薦書等）を参考にしながら、志望動機や自己の目標、高校生活等の活動状況、小学校教員としての教職の意欲などからアドミッション・ポリシーへの適合性についてみます。複数の面接官による個人面接を実施します。

② 中学校教員養成課程（理科）

出願書類（調査書、推薦書等）を参考にしながら、理科に必要な基礎知識、高校生活等の活動状況、自己の目標や意欲、表現力などの観点からアドミッション・ポリシーへの適合性についてみます。複数の面接官による個人面接を実施します。

③ 中学校教員養成課程（技術）

出願書類（調査書、推薦書等）を参考にしながら、志望動機や自己の目標、技術に関する興味・関心や理解度、技術科に必要な基礎知識、高校生活等の活動状況、教職への意欲などからアドミッション・ポリシーへの適合性についてみます。複数の面接官による個人面接を実施します。

④ 中学校教員養成課程（家庭）

出願書類（調査書、推薦書等）を参考にしながら、家庭科に必要な基礎知識、高校生活等の活動状況、自己の目標や意欲、表現力などの観点からアドミッション・ポリシーへの適合性についてみます。複数の面接官による個人面接を実施します。

⑤ 特別支援教育教員養成課程

出願書類（調査書、推薦書等）を参考にしながら、志望動機や自己の目標、特別支援に関する興味・関心や理解度、ボランティア経験等の活動状況、教職への意欲などからアドミッション・ポリシーへの適合性についてみます。複数の面接官による個人面接を実施します。

⑥ 養護教諭養成課程

出願書類（調査書、推薦書等）を参考にしながら、保健に関する興味・関心、理解の度合いなどの観点からアドミッション・ポリシーへの適合性についてみます。複数の面接官による個人面接を実施します。

【調査書等】

就学状況、学業成績、資格取得状況、クラブ活動や社会的活動等をみます。

【配 点】

区分 課程	大学入試センター試験						個別学力検査等		合計
	教科・科目等					計	面接	計	
	国語	地歴・公民	数学	理科	外国語				
小学校教員養成課程 特別支援教育教員養成課程	200	*100/200	200	*100/200	200	/	100	100	100
7科目又は8科目合計(900点)の6割以上									
中学校教員養成課程 〔理科〕	/	/	200	200	200	200	100	100	300
7科目又は8科目合計(900点)の6割以上									
中学校教員養成課程 〔技術〕	*200	/	*200	/	*200	200	300	300	500
1教科1科目選択									
中学校教員養成課程 〔家庭〕 養護教諭養成課程	200	*100/200	200	*100/200	200	900	200	200	1100

- (注) 1. * が付してある教科・科目は、選択教科・科目を示します。
 2. 大学入試センター試験で受験を要する教科・科目については、「3. 選抜方法」の表(19ページ)を参照してください。
 3. 中学校教員養成課程〔理科〕の大学入試センター試験(数学・理科・外国語)の点数は、合計点(600点)を200点に換算します。
 4. 大学入試センター試験で課す「外国語〔英語〕」については、筆記(200点満点)とリスニング(50点満点)の合計点を200点満点に圧縮したうえで、各課程における配点のとおり換算します。

5. 合否判定基準

- ① 小学校教員養成課程及び特別支援教育教員養成課程の志望者については、平成29年度大学入試センター試験の(5教科又は6教科7科目以上)又は(5教科又は6教科8科目以上)を受験し、かつ、7科目又は8科目合計点の6割以上を得た者を対象に、面接点の高得点順に合格者を決定します。
- ② 中学校教員養成課程〔理科〕の志望者については、平成29年度大学入試センター試験の5教科7科目又は5教科8科目以上を受験し、かつ、7科目又は8科目合計点の6割以上を得た者を対象に、大学入試センター試験(「数学」、「理科」、「外国語」の合計点を200点に換算)と面接の合計点の高得点順に合格者を決定します。
- ③ 中学校教員養成課程〔技術〕の志望者については、平成29年度大学入試センター試験を受験した者を対象に、大学入試センター試験と面接の合計点の高得点順に合格者を決定します。
- ④ 中学校教員養成課程〔家庭〕及び養護教諭養成課程の志望者については、平成29年度大学入試センター試験の(5教科又は6教科7科目以上)又は(5教科又は6教科8科目以上)を受験した者を対象に、大学入試センター試験と面接の合計点の高得点順に合格者を決定します。

6. 試験日時等

- (1) 日 時 平成29年2月4日(土)

課 程	集合時間	集合場所
小学校教員養成課程 中学校教員養成課程〔技術〕 特別支援教育教員養成課程	9時	教育学部玄関前
中学校教員養成課程 〔理科, 家庭〕 養護教諭養成課程	12時	

(2) 試験場 熊本大学教育学部 熊本市中央区黒髪2丁目40番1号

- (注) 1. 小学校教員養成課程及び特別支援教育教員養成課程の受験者は、面接の順番により昼食が必要となる場合があります。
2. 「本学から交付の受験票(推薦入試Ⅱ用)」及び「大学入試センター試験受験票」を持参してください。

[本件に関する問合せ先]

熊本大学教育学部事務課教務担当 電話：096-342-2522

2. 医学部 医学科（一般枠）

1. 募集人員

医学科 15人

2. 推薦の要件

推薦人員は、一つの学校から1人とします。ただし、熊本県、福岡県、佐賀県、長崎県、大分県、宮崎県、鹿児島県の学校については、2人までとします。

なお、推薦入試Ⅱ（地域枠）との併願はできません。

志望学科への入学の意志が強固な者で、次の(1)～(4)のすべての要件を満たす者

(1) 次のいずれかに該当する者

- ① 高等学校（特別支援学校の高等部を含む。）又は中等教育学校を平成29年3月卒業見込みの者（平成28年度中に卒業を認められる者を含む。）
- ② 高等専門学校の第3学年を平成29年3月修了見込みの者
- ③ 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定又は指定した在外教育施設の当該課程を平成29年3月修了見込みの者（平成28年度中に修了を認められる者を含む。）

(2) 上記(1)の教育施設における評定平均値が4.0以上であって、人物・能力及び適性等について当該学校長が責任をもって推薦できる者

(3) 平成29年度大学入試センター試験の5教科7科目以上（3. 選抜方法参照）を受験した者

(4) 合格した場合、入学することを確約できる者

3. 選抜方法

大学入試センター試験、推薦書、調査書及び面接の成績により総合的に判定します。

大学入試センター試験で受験を要する教科・科目

学 科	教 科 ・ 科 目
医 学 科	国 : 国語……1 地歴 : ※世A, 世B, ※日A, 日B, ※地理A, 地理B } から1 公民 : 現社, 倫, 政経, 倫・政経 数 : 数I・数A……1 } 2 数II・数B, ※簿, ※情報から1 理 : 生物……1 } 2 物理, 化学から1 外 : 英, 独, 仏, 中, 韓から1 <div style="text-align: right;">[5教科7科目]</div>

(注) 1. 「地歴」及び「公民」の教科について、2科目を受験している者の成績は、第1解答科目の成績を採用します。

2. 大学入試センター試験で受験を要する教科・科目欄中※印の科目を選択解答できる者は、出願要件となる教育施設においてこれらの科目を履修した者に限ります。

4. 評価基準・配点

【面接】

医学科の教育を受けるために必要な基礎学力，科学的・知的探究心，医学に対する熱意と適性，柔軟な思考力，高等学校における活動状況を参考とします。

調査書，推薦書を参考にしながら，複数の面接官による個人面接を実施します。

【配点】

区分 学科	大学入試センター試験					個別学力検査等			合計
	教科・科目等					計	面接	計	
	国語	地歴・公民	数学	理科	外国語				
医学科	200	100	200	200	200	100	15	15	115
合計点を100点に換算する									

※ 大学入試センター試験で課す「外国語『英語』」については，筆記（200点満点）とリスニング（50点満点）の合計点を200点満点に圧縮したうえで，学科における配点のとおり換算します。

5. 合否判定基準

- ① 平成29年度大学入試センター試験の 5教科7科目以上を受験し，かつ，7科目合計点の80%以上を得た者を対象に，総得点の高い順に募集人員の範囲で合格者を決定します。
- ② 面接について，複数の面接官が最低の評価点を与えた場合，合格としません。

6. 試験日時等

- (1) 日時 平成29年2月4日(土)12時30分までに集合
- (2) 試験場 熊本大学医学部医学科 熊本市中央区本荘1丁目1番1号

※ 「本学から交付の受験票（推薦入試Ⅱ用）」及び「大学入試センター試験受験票」を持参してください。

[本件に関する問合せ先]

熊本大学生命科学系事務課医学事務チーム教務担当 電話：096-373-5025

3. 医学部 医学科 (地域枠)

1. 募集人員

医学科 5人

2. 推薦の要件

熊本県内の高等学校から募集し、推薦できるのは一つの学校から2人以内とします。

なお、推薦入試Ⅱ（一般枠）との併願はできません。

推薦要件は、志望学科への入学の意志が強固、かつ将来、熊本県の地域医療を目指す者で、次の(1)～(4)までのすべての要件を満たす者

- (1) 高等学校（特別支援学校の高等部を含む。）又は中等教育学校を平成28年3月に卒業した者及び平成29年3月卒業見込みの者（平成28年度中に卒業を認められる者を含む。）
- (2) 上記(1)の教育施設における評定平均値が4.0以上であって、人物・能力及び適性等について当該学校長が責任をもって推薦できる者
- (3) 平成29年度大学入試センター試験の5教科7科目以上（3. 選抜方法参照）を受験した者
- (4) 合格した場合、熊本県医師修学資金の貸与を受け、入学することを確約できる者

3. 選抜方法

大学入試センター試験、推薦書、調査書、志望理由書（地域医療に対する抱負や意見について800字程度）及び面接の成績により総合的に判断します。

大学入試センター試験で受験を要する教科・科目

学 科	教 科 ・ 科 目
医 学 科	国 : 国語……1
	地歴 : ※世A, 世B, ※日A, 日B, ※地理A, 地理B } から1
	公民 : 現社, 倫, 政経, 倫・政経
	数 : 数I・数A……1
	数II・数B, ※簿, ※情報から1 } 2
	理 : 生物……1
物理, 化学から1 } 2	
外 : 英, 独, 仏, 中, 韓から1	
	[5教科7科目]

(注) 1. 「地歴」及び「公民」の教科について、2科目を受験している者の成績は、第1解答科目の成績を採用します。

2. 大学入試センター試験で受験を要する教科・科目欄中※印の科目を選択解答できる者は、出願要件となる教育施設においてこれらの科目を履修した者に限ります。

4. 評価基準・配点

【面接】

医学科の教育を受けるために必要な基礎学力，科学的・知的探究心，医学（地域医療を含む）に対する熱意と適性，柔軟な思考力，高等学校における活動状況を参考とします。

調査書，推薦書および志望理由書を参考にしながら，複数の面接官による個人面接を実施します。

【配点】

区分 学科	大学入試センター試験					計	個別学力検査等		合計
	教科・科目等						面接	計	
	国語	地歴・公民	数学	理科	外国語				
医学科	200	100	200	200	200	100	30	30	130
合計点を100点に換算する									

※ 大学入試センター試験で課す「外国語『英語』」については，筆記（200点満点）とリスニング（50点満点）の合計点を200点満点に圧縮したうえで，学科における配点のとおり換算します。

5. 合否判定基準

- ① 平成29年度大学入試センター試験の 5教科7科目以上を受験し，かつ，7科目合計点の78%以上を得た者を対象に，総得点の高い順に募集人員の範囲で合格者を決定します。
- ② 面接について，複数の面接官が最低の評価点を与えた場合，合格としません。

6. 試験日時等

- (1) 日時 平成29年2月4日(土)12時30分までに集合
- (2) 試験場 熊本大学医学部医学科 熊本市中央区本荘1丁目1番1号

※ 「本学から交付の受験票（推薦入試Ⅱ用）」及び「大学入試センター試験受験票」を持参してください。

[本件に関する問合せ先]

熊本大学生命科学系事務課医学事務チーム教務担当 電話：096-373-5025

4. 医学部 保健学科

1. 募集人員

看護学専攻	12 人
放射線技術科学専攻	4 人
検査技術科学専攻	5 人

2. 推薦の要件

○看護学専攻，放射線技術科学専攻，検査技術科学専攻

推薦人員は，各専攻とも，一つの学校から2人以内とします。

志望専攻への入学の意志が強固な者で，次の(1)～(4)のすべての要件を満たす者

(1) 次のいずれかに該当する者

- ① 高等学校（特別支援学校の高等部を含む。）又は中等教育学校を平成29年3月卒業見込みの者（平成28年度中に卒業を認められる者を含む。）
- ② 高等専門学校の第3学年を平成29年3月修了見込みの者
- ③ 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定又は指定した在外教育施設の当該課程を平成29年3月修了見込みの者（平成28年度中に修了を認められる者を含む。）

(2) 上記(1)の教育施設における全体の評定平均値が4.0以上であって，人物・能力及び適性等について当該学校長が責任をもって推薦できる者

(3) 平成29年度大学入試センター試験の5教科7科目以上（3. 選抜方法参照）を受験した者

(4) 合格した場合，入学することを確約できる者

3. 選抜方法

大学入試センター試験，推薦書，志望理由書，調査書及び面接の成績により総合的に判定します。

大学入試センター試験で受験を要する教科・科目

専攻	教科・科目
看護学専攻	国：国語……1 地歴：※世A，世B，※日A，日B，※地理A，地理B } から1 公民：現社，倫，政経，倫・政経
放射線技術科学専攻	数：数Ⅰ・数A……1 数Ⅱ・数B，※簿，※情報から1 } 2
検査技術科学専攻	理：物理，化学，生物から2 外：英，独，仏，中，韓から1
	[5教科7科目]

(注) 1. 「地歴」及び「公民」の教科について，2科目を受験している者の成績は，第1解答科目の成績を採用します。

2. 大学入試センター試験で受験を要する教科・科目欄中※印の科目を選択解答できる者は，出願要件となる教育施設においてこれらの科目を履修した者に限ります。

4. 評価基準・配点

【面接】

○看護学専攻，放射線技術科学専攻，検査技術科学専攻

出願書類（推薦書，調査書，志望理由書等）を参考にして，各専攻を志望した動機，科学的・知的探究心，柔軟な思考力，各専攻に対する熱意と適性，将来性，高等学校における活動状況等をみます。

【調査書等】

就学状況，学業成績，資格取得状況，クラブ活動や社会的活動等をみます。

【配点】

学科	大学入試センター試験						個別学力検査等		合計
	教科・科目等					計	面接	計	
	国語	地歴・公民	数学	理科	外国語				
看護学専攻	200	100	200	200	200	900	100	100	1000
放射線技術科学専攻	200	100	200	200	200	900	100	100	1000
検査技術科学専攻	200	100	200	200	200	900	100	100	1000

※ 大学入試センター試験で課す「外国語『英語』」については，筆記（200点満点）とリスニング（50点満点）の合計点を200点満点に圧縮したうえで，各専攻における配点のとおり換算します。

5. 合否判定基準

- ① 平成29年度大学入試センター試験の5教科7科目以上を受験し，かつ，7科目合計点の65%以上を得た者を対象に，総得点の高い順に募集人員の範囲で合格者を決定します。
- ② 面接の得点が60%に満たない場合は不合格とします。
- ③ 合計点が同点の場合は，面接の成績を優先して順位を決定します。

6. 試験日時等

- (1) 日時 平成29年2月4日(土)12時30分までに集合
- (2) 試験場 熊本大学医学部保健学科 熊本市中央区九品寺4丁目24番1号

※ 「本学から交付の受験票（推薦入試Ⅱ用）」及び「大学入試センター試験受験票」を持参してください。

[本件に関する問合せ先]

熊本大学生命科学系事務課保健学事務チーム教務担当 電話：096-373-5571

5. 薬学部

1. 募集人員

薬学科	10 人
創薬・生命薬科学科	10 人

2. 推薦の要件

推薦人員は、各学科とも、一つの学校から1人とします。ただし、創薬・生命薬科学科については、スーパーグローバルハイスクール及びスーパーサイエンスハイスクールに指定（出願時）されている学校は、2人までとします。

志望学科への入学意志が強固な者で、次の(1)～(4)のすべての要件を満たす者

(1) 次のいずれかに該当する者

- ① 高等学校（特別支援学校の高等部を含む。）又は中等教育学校を平成28年3月に卒業した者及び平成29年3月卒業見込みの者（平成28年度中に卒業を認められる者を含む。）
- ② 高等専門学校の第3学年を平成29年3月修了見込みの者
- ③ 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定又は指定した在外教育施設の当該課程を平成28年3月に卒業した者及び平成29年3月修了見込みの者（平成28年度中に修了を認められる者を含む。）

(2) 上記(1)の教育施設における学習成績が優良な者のうち、人物・能力及び適性等について当該学校長が責任をもって推薦できる者

(3) 平成29年度大学入試センター試験の5教科7科目以上（3. 選抜方法参照）を受験した者

(4) 合格した場合、入学することを確約できる者

3. 選抜方法

大学入試センター試験、推薦書、調査書、志望理由書及び面接の成績により総合的に判定します。大学入試センター試験で受験を要する教科・科目

学 科	教 科・科 目
薬 学 科 創薬・生命薬科学科	国 : 国語……1
	地歴 : ※世A, 世B, ※日A, 日B, ※地理A, 地理B } から 1
	公民 : 現社, 倫, 政経, 倫・政経
	数 : 数I・数A……1 } 2
	数II・数B, ※簿, ※情報から 1
理 : 化学……1 } 2	
物理, 生物から 1	
外 : 英, 独, 仏, 中, 韓から 1	
	[5教科7科目]

(注) 1. 「地歴」及び「公民」の教科について、2科目を受験している者の成績は、第1解答科目の成績を採用します。

2. 大学入試センター試験で受験を要する教科・科目中※印の科目を選択解答できる者は、出願要件となる教育施設においてこれらの科目を履修した者に限ります。

4. 評価基準・配点

【面接】

薬学部の教育を受けるために必要な基礎学力，科学的・知的探求心，薬学に対する熱意と適性，柔軟な思考力，高校生時代の活動状況をみます。

調査書，推薦書及び志望理由書を参考にしながら，複数の面接官による個人面談を実施します。

【配点】

学科	区分	大学入試センター試験					計	個別学力検査等	合計
		教科・科目等						面接	
		国語	地歴・公民	数学	理科	外国語			
薬学科		200	100	200	200	200	300	100	400
創薬・生命薬科学科		合計点を300点に換算する							

※大学入試センター試験で課す「外国語『英語』」については，筆記(200点満点)とリスニング(50点満点)の合計点を200点満点に圧縮したうえで，学科における配点のとおり換算します。

5. 合否判定基準

平成29年度大学入試センター試験の5教科7科目以上を受験し，かつ，7科目合計点の7割以上を得た者を対象に，総得点の高い順に募集人員の範囲で合格者を決定します。

6. 試験日時等

- (1) 日時 平成29年2月4日(土) 9時30分までに集合
 - (2) 試験場 熊本大学薬学部 熊本市中央区大江本町5番1号
- (注) 1. 「本学から交付の受験票(推薦入試Ⅱ用)」及び「大学入試センター試験受験票」を持参してください。
2. 面接の順番により昼食が必要となる場合があります。

[本件に関する問合せ先]

熊本大学生命科学系事務課薬学事務チーム教務担当 電話：096-371-4635

6. 工 学 部 (ア)

1. 募集人員

物質生命化学科	15 人
マテリアル工学科	5 人
機械システム工学科	15 人
社会環境工学科	14 人
建築学科	12 人
情報電気電子工学科	28 人
数理工学科	2 人

2. 推薦の要件

志望学科への入学の意志が強固な者で、次の(1)～(4)のすべての要件を満たす者

(1) 次のいずれかに該当する者

- ① 高等学校（特別支援学校の高等部を含む。）又は中等教育学校を平成 28 年 3 月以降に卒業した者又は平成 29 年 3 月に卒業見込みの者
- ② 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程又は相当する課程を有するものとして認定又は指定した在外教育施設の当該課程を平成 28 年 3 月以降修了した者又は平成 29 年 3 月修了見込みの者

(2) 上記(1)の教育施設における学習成績が優良な者のうち、人物・能力及び適性等について当該学校長が責任をもって推薦できる者

(3) 平成 29 年度大学入試センター試験の 5 教科 7 科目以上（3. 選抜方法参照）を受験した者

(4) 合格した場合、入学することを確約できる者

推薦入試Ⅰ及び推薦入試Ⅱの両方を実施する工学部の学科は、推薦入試Ⅰの不合格者を、推薦入試Ⅰと同一の学科の推薦入試Ⅱ（大学入試センター試験を課す）の被推薦者とすることを認めます。

3. 選抜方法

大学入試センター試験、推薦書、調査書、志望理由書及び面接の成績により総合的に判定します。

大学入試センター試験で受験を要する教科・科目

学 科	教 科 ・ 科 目
物質生命化学科	国 : 国語……1
マテリアル工学科	地歴 : 世B, 日B, 地理B
機械システム工学科	公民 : 現社, 倫, 政経, 倫・政経 } から 1
社会環境工学科	数 : 数Ⅰ・数A……1
建 築 学 科	数Ⅱ・数B, ※簿, ※情報から 1 } 2
情報電気電子工学科	理 : 物理, 化学, 生物, 地学から 2
数 理 工 学 科	外 : 英, 独, 仏, 中, 韓から 1
	〔5 教科 7 科目〕

(注) 1. 「地歴」及び「公民」の教科について、2 科目を受験している者の成績は、第 1 解答科目の成績を採用します。

2. 大学入試センター試験で受験を要する教科・科目欄中※印の科目を選択解答できる者は、出願要件となる教育施設においてこれらの科目を履修した者に限ります。

4. 評価基準・配点

【調査書等】

学業成績，就学状況，生活態度，取得資格，クラブ活動やボランティア活動など社会的活動等を見ます。

【面接】

出願書類（推薦書，調査書，志望理由書等）を参考にしながら，志望の具体的な動機や目的，志望学科に関わる専門分野への関心や知識，高等学校における活動状況などを尋ね，表現力，積極性，勉強意欲などの観点からアドミッション・ポリシーへの適合性についてみます。

建築学科では集団面接を，他の学科では個人面接を実施します。

また，以下の学科の面接では口頭試問を行います。

① 物質生命化学科

化学分野と物理分野あるいは化学分野と生物分野の知識に関する口頭試問を行います。

② マテリアル工学科

数学分野，物理分野もしくは化学分野に関する口頭試問を行い，科学的思考力や関心度を問います。

③ 機械システム工学科

基礎学力（数学分野及び物理分野）に関する口頭試問を行います。

④ 数理工学科

基礎学力（数学分野）に関する口頭試問を行います。

（注）出題範囲は次のとおりとします。数学分野（数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B），物理分野（物理基礎・物理），化学分野（化学基礎・化学），生物分野（生物基礎・生物）

【配点】

区分 学科	大学入試センター試験						個別学力検査等		合計
	教科・科目等					計	面接	計	
	国語	地歴・公民	数学	理科	外国語				
物質生命化学科	200	100	200	200	200	900	200	200	1100
マテリアル工学科									
機械システム工学科									
社会環境工学科									
建築学科									
情報電気電子工学科									
数理工学科									

大学入試センター試験で課す「外国語『英語』」については，筆記（200点満点）とリスニング（50点満点）の合計点を200点満点に圧縮したうえで，各学科における配点のとおりに換算します。

5. 合否判定基準

- ① 総得点の高い順に合格者を決定します。
- ② 情報電気電子工学科については、面接の得点が著しく低い場合は不合格となります。

6. 試験日時等

- (1) 日 時 平成 29 年 2 月 4 日(土) 集合時間 13 時
- (2) 試験場 熊本大学工学部 2 号館 熊本市中央区黒髪 2 丁目 39 番 1 号

※ 「本学から交付の受験票（推薦入試Ⅱ用）」及び「大学入試センター試験受験票」を持参してください。

[本件に関する問合せ先]

熊本大学自然科学系事務課工学部教務担当 電話：096－342－3522

7. 工 学 部 (イ)

1. 募集人員

物質生命化学科 マテリアル工学科 機械システム工学科 社会環境工学科 建築学科 情報電気電子工学科 数理工学科	}	各学科とも若干名 (募集人員の若干名は工学部 (ア) の募集人員の枠内とします)
---	---	---

2. 推薦の要件

職業教育を主とする専門高校 (学科) 及び総合学科を平成 29 年 3 月卒業見込み (平成 28 年 4 月以降に卒業した者を含む) の者で、次の(1)～(4)のすべての要件を満たす者

(1) 職業教育を主とする専門高校 (学科) においては、高等学校の学習成績概評が A で、最上位又はそれに準ずる者 (ただし、建築学科を志望する者は最上位者に限る)

総合学科においては、高等学校の学習成績概評が A の者に限る。

(2) 人物・能力及び適性等について当該高等学校長が責任をもって推薦できる者

(3) 平成 29 年度大学入試センター試験の 2 教科 3 科目以上 (3. 選抜方法参照) を受験した者

(4) 合格した場合、入学することを確約できる者

(注) 総合学科については、次表で示す工学部各学科の対象となる系列に関する教科・科目を 20 単位以上修得 (見込みを含む) した者

工学部各学科において対象となる、職業教育を主とする専門高校 (学科) 及び総合学科の系列は、次のとおりです。

学 科	対 象 者	
	専門高校の学科	総合学科の系列
物 質 生 命 化 学 科	化学関連の学科	化学関連の系列
マテリアル工学科	工学関連の全学科	工学関連の全系列
機械システム工学科	機械関連の学科	機械関連の系列
社会環境工学科	土木・都市・環境関連の学科	土木・都市・環境関連の系列
建 築 学 科	建築関連の学科	建築関連の系列
情報電気電子工学科	情報・電気・電子・通信関連の学科	情報・電気・電子・通信関連の系列
数 理 工 学 科	工学関連の全学科	工学関連の全系列

推薦入試 I 及び推薦入試 II の両方を実施する工学部の学科は、推薦入試 I の不合格者を、推薦入試 I と同一の学科の推薦入試 II (大学入試センター試験を課す) の被推薦者とすることを認めます。

3. 選抜方法

大学入試センター試験，推薦書，調査書及び面接の成績により総合的に判定します。

大学入試センター試験で受験を要する教科・科目

学 科	教 科 ・ 科 目
物質生命化学科	数：数Ⅰ・数A……1 数Ⅱ・数B，※簿，※情報から1 } 2 外：英，独，仏，中，韓から1 [2教科3科目]
マテリアル工学科	
機械システム工学科	
社会環境工学科	
建 築 学 科	
情報電気電子工学科	
数 理 工 学 科	

(注) 大学入試センター試験で受験を要する教科・科目欄中※印の科目を選択解答できる者は，出願要件となる教育施設においてこれらの科目を履修した者に限ります。

4. 評価基準・配点

【調査書等】

学業成績，就学状況，生活態度，取得資格，クラブ活動やボランティア活動など社会的活動等を見ます。

【面 接】

出願書類（推薦書，調査書等）を参考にしながら，志望の具体的な動機や目的，志望学科に関わる専門分野への関心や知識，高等学校における活動状況などを尋ね，表現力，積極性，勉強意欲などの観点からアドミッション・ポリシーへの適合性についてみます。

個人面接を実施します。

また，以下の学科の面接では口頭試問を行います。

- ① 物質生命化学科
化学分野と物理分野あるいは化学分野と生物分野の知識に関する口頭試問を行います。
- ② マテリアル工学科
数学分野，物理分野もしくは化学分野に関する口頭試問を行い，科学的思考力や関心度を問います。
- ③ 機械システム工学科
基礎学力（数学分野及び物理分野）に関する口頭試問を行います。
- ④ 情報電気電子工学科
基礎学力（数学分野と〔電気電子，情報から1科目選択〕）に関する口頭試問を行います。
- ⑤ 数理工学科
基礎学力（数学分野）に関する口頭試問を行います。

(注) 出題範囲は次のとおりとします。数学分野（数Ⅰ・数Ⅱ・数Ⅲ・数A・数B），物理分野（物理基礎・物理），化学分野（化学基礎・化学），生物分野（生物基礎・生物）

【配点】

区分 学 科	大学入試センター試験						個別学力検査等		合計
	教科・科目等					計	面接	計	
	国語	地歴・公民	数学	理科	外国語				
物質生命化学科 マテリアル工学科 機械システム工学科 社会環境工学科 建 築 学 科 情報電気電子工学科 数 理 工 学 科			300 (1科目 150点)		200	500	200	200	700

大学入試センター試験で課す「外国語『英語』」については、筆記（200点満点）とリスニング（50点満点）の合計点を200点満点に圧縮したうえで、各学科における配点のとおり換算します。

5. 合否判定基準

総得点の高い順に合格者を決定します。

6. 試験日時等

- (1) 日 時 平成29年2月4日(土) 集合時間 13時
- (2) 試験場 熊本大学工学部2号館 熊本市中央区黒髪2丁目39番1号

※ 「本学から交付の受験票（推薦入試Ⅱ用）」及び「大学入試センター試験受験票」を持参してください。

[本件に関する問合せ先]

熊本大学自然科学系事務課工学部教務担当 電話：096-342-3522

共 通 事 項

1. 出願手続

(1) 提出書類等

提出書類等	摘 要
入学志願票（一式）	本要項とじ込みの用紙を使用してください。 なお、記入の際は、「入学志願票等の記入要領」を熟読のうえ記入してください。
平成 29 センター試験成績請求票（推薦入試Ⅱのみ）	大学入試センターから交付を受けた有効な「 <u>推薦</u> 平成 29 センター試験成績請求票 国公立推薦入試用」を志願票の所定の欄に貼ってください。
推 薦 書	本要項とじ込みの用紙に記入作成し、厳封したもの。
調 査 書	出身学校長が文部科学省で定めた様式により作成し、厳封したもの。 推薦入試Ⅰ（工学部志望者）の「推薦の要件」で、指定された科目と異なる科目名で履修している場合は、「科目の対応表」を必ず添付してください。
志 望 理 由 書	・推薦入試Ⅰ ・推薦入試Ⅱ（教育学部（小学校教員養成課程，中学校教員養成課程（技術），特別支援教育教員養成課程），医学部医学科（地域枠），医学部保健学科，薬学部及び工学部（ア）志望者のみ） 本要項とじ込みの用紙に記入作成したもの。
写 真（2枚）	縦 4cm 横 3cm，上半身脱帽正面向き無背景，願書受付日前 3 か月以内に撮影したものを写真票及び受験票に剥がれないように貼ってください。また、 写真の裏に氏名を記入 してください。
住 所 票 （志願者あて合格通知書送付用）	本要項とじ込みの用紙に，志願者の郵便番号，住所，氏名を記入してください。
住 所 票 （出身学校あて選抜結果通知書送付用）	本要項とじ込みの用紙に，出身学校の郵便番号，住所，学校名を記入してください。 推薦入試Ⅰ志願者（工学部志望者のみ）は，第 1 次選抜の結果通知用にも記入してください。
封 筒 （受験票返送用）	本要項とじ込みの封筒に郵便番号，住所，氏名を明記し，362 円分の切手を貼ってください。
検 定 料	17,000 円：とじ込みの払込用紙（入試成績の開示を希望する場合は，17,362 円の払込用紙，希望しない場合は，17,000 円の払込用紙）を使って，郵便局又は銀行の受付窓口（ATMは使用しないでください）で払い込みの上，検定料受付証明書を入学志願票の所定の欄に貼ってください。 なお，平成 28 年熊本地震，東日本大震災及び平成 24 年 7 月九州北部豪雨の災害により災害救助法が適用されている地域で被災された方については，入学検定料免除の特例措置を行っております。条件や手続き等の詳細については，本学ウェブサイトをご覧ください。 <u>(http://www.kumamoto-u.ac.jp/)</u> （注）工学部志望者の第 1 次選抜の不合格者には，検定料のうち 13,000 円を返還しますので，その場合は平成 29 年 3 月 31 日（金）までに申し出てください。返還方法は，第 1 次選抜の結果とともに通知します。申込期間の翌月以降に返還予定です。

(2) 出願期間

推薦入試Ⅰ 平成28年11月1日(火)から11月7日(月)17時(必着)

11月7日(月)17時以降に到着したものは、11月5日(土)までの消印のあるもの
に限り受け付けます。

推薦入試Ⅱ 平成29年1月16日(月)から1月19日(木)17時(必着)

1月19日(木)17時以降に到着したものは、1月17日(火)までの消印のあるもの
に限り受け付けます。

(3) 提出方法

出願書類送付用封筒で個別(1志願者1通)に「書留速達」郵便で学生支援部入試課あて送付して
ください。持参は受け付けません。

(4) 注意事項

- ① 出願書類を受理した後は、記載事項の変更及び出願書類の返還はできません。
- ② 出願書類に虚偽の記載及び不正な申告があった場合は、入学を認めないことがあります。

(5) 提出先

〒860-8555 熊本市中央区黒髪2丁目40番1号 熊本大学学生支援部入試課

2. 検定料の払込方法

(1) 検定料 17,000円

(入試成績の開示を希望しない場合は、17,000円；希望する場合は、17,362円)

(2) 払込期間 推薦入試Ⅰ 平成28年10月21日(金)から11月7日(月)まで

推薦入試Ⅱ 平成29年1月6日(金)から1月19日(木)まで

※「検定料受付証明書」を志願票の所定の欄に貼り付ける必要がありますので、
出願締切に間に合うよう払い込んでください。

(3) 払込場所

郵便局又は銀行の受付窓口

振込手数料は、志願者本人の負担となります。

※ATM(現金自動預払機)は使用不可。必ず受付窓口で払い込んでください。

(4) 出願に際しての留意事項

- ① 検定料が払い込まれていない場合又は払込済の「検定料受付証明書」が志願票の所定の欄に貼り
付けられていない場合は出願を受理しません。
- ② 出願書類を受理した後は、次の場合を除き、いかなる理由があっても払込済の検定料は返還しま
せん。

(ア) 検定料を払い込んだが出願しなかった(出願書類等を提出しなかった又は出願が受理され
なかった)場合

(イ) 検定料を誤って二重に払い込んだ場合

(ウ) 推薦入試Ⅱにおいて出願受付後に大学入試センター試験受験科目の不足により受験資格の
ないことが判明した場合(この場合、既納の検定料のうち13,000円を返還する。)

(エ) 推薦入試Ⅰ(工学部のみ)において第1次選抜不合格の場合(37ページ検定料欄参照)
返還請求の方法

返還請求の理由、志願者氏名(氏名の右側に押印願います)、志望学部・学科、現
住所、郵便番号、連絡電話番号、振込口座〔銀行(ゆうちょ銀行を除く)名、支店
名、普通預金の口座番号、口座名義(ふりがなも記入ください)、志願者氏名と口座
名義が異なる場合は志願者との続柄〕を明記した検定料返還請求願(様式は問わな
い)を作成し、必ず「検定料受付証明書」を添付して速やかに下記あて郵送してく
ださい。

送付先 〒860-8555
熊本市中央区黒髪2丁目39番1号
熊本大学運営基盤管理部財務課収入・支出チーム
問い合わせ先 (電話)096-342-3176

3. 入学志願票等の記入要領

記入に当たっては、必ず志願者本人が、「後で消せない黒のボールペン」を使用し、楷書で正確に記入してください。鉛筆や消せるボールペンの使用は認めません。

ただし、※印欄は記入しないでください。

「1. 志望学部等」欄

- ・志望する学部を記入してください。
- ・推薦入試Ⅱの医学部医学科志望者は推薦区分（一般）又は（地域）を、工学部志望者は推薦区分（ア）又は（イ）のいずれかを○で囲んでください。

「2. 氏名・生年月日等」欄

氏名、フリガナ、生年月日を記入し、生年の年号、性別を○で囲んでください。

「3. 出願資格」欄

- ・高等学校等コードは「平成 29 年度大学入学選抜大学入試センター試験受験案内」の「高等学校等コード表」により、該当するコード番号を記入してください。
- ・☆印の欄は、該当する項目を○で囲み、卒業した年を記入例により記入してください。
【記入例】平成 28 年 3 月卒業の場合、28 と記入してください。
- ・推薦入試Ⅱについては、指定の箇所から大学入試センターから交付されている「**推薦**平成 29 センター試験成績請求国公立推薦入試用」を貼ってください。

「4. 志望学科（専攻）・課程（教科専攻）」欄

41 ページを参照して志望する学科（専攻）・課程（教科専攻）とコード番号を記入してください。

「5. 開示請求」欄

入試成績の開示を希望しない人は「0」を、希望する人は「1」を、○で囲んでください。

「6. 現住所など」欄

記載事項について問い合わせる場合があるので、連絡先の電話番号は必ず記入してください。

なお、出願後、連絡先が変更になった場合は、受験番号、氏名、変更箇所を記入した変更届（様式は自由）を志望学部へ提出してください。

「7. 平成 29 年度大学入試センター試験受験教科・科目の確認について」欄 [推薦入試Ⅱのみ]

出願に当たっては、志望する学部・学科・課程・専攻等の受験に必要な大学入試センター試験の教科・科目を受験しているか、以下の確認欄でチェックし、必ず各自で確認してください。すべてに●が付いた者は、入学志願票の「志望する各学部・学科（専攻）が指定した大学入試センター試験受験教科・科目をすべて受験した」欄の「はい」を○で囲んでください。

確認した上で、以下の志望する学部・学科の各確認欄のすべてに●が付かない者は、受験資格がありませんので注意してください。

志願票「7. 平成29年度大学入試センター試験受験教科・科目の確認について」より
 大学入試センター試験教科・科目の本人用確認表
 受験している科目を塗りつぶして確認してください。

志望学部等 チェック欄	大学入試 センター試験 教科・科目	国 語	地 理 史		公 民		数 学				理 科				外 国 語													
			世 界 史 A	世 界 史 B	日 本 史 A	日 本 史 B	地 理 A	地 理 B	現 代 社 会	倫 理	政 治 ・ 経 済	倫 理 ・ 政 治 ・ 経 済	数 学 I ・ 数 学 A	数 学 II ・ 数 学 B	簿 記 ・ 会 計	情 報 関 係 基 礎	物 理 基 礎	化 学 基 礎	生 物 基 礎	地 学 基 礎	物 理	化 学	生 物	地 学	英 語	ド イ ツ 語	フ ラ ン ス 語	中 国 語
<input type="checkbox"/>	教育学部 小学校教員養成課程 中学校教員養成課程（理科・家庭） 特別支援教育教員養成課程 養護教諭養成課程 （5教科又は6教科7科目）又は （5教科又は8教科8科目）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		1	1又は2〔中学理科は1〕 理科と合わせて3					1	1	1又は2〔中学理科は2〕 地理歴史、公民と合わせて3				1														
<input type="checkbox"/>	教育学部 中学校教員養成課程（技術） （1教科1科目）	○ 1（※）						○ ○ ○ ○								○ ○ ○ ○ ○ ○												
								1（※）								1（※）												
			1（※）の中から1																									
<input type="checkbox"/>	医学部医学科 （5教科7科目）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		1	1					1	1					1	1	1												
<input type="checkbox"/>	医学部保健学科 （5教科7科目）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		1	1					1	1					2				1										
<input type="checkbox"/>	薬学部 （5教科7科目）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		1	1					1	1					化と物、生から1				1										
<input type="checkbox"/>	工学部（ア） （5教科7科目）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		1	1					1	1					2				1										
<input type="checkbox"/>	工学部（イ） （2教科3科目）							○ ○ ○ ○								○ ○ ○ ○ ○ ○												
								1	1									1										

注)教育学部の理科は、物基、化基、生基、地基については、2科目受験することで「理科1科目」受験とする。

「写真票、受験票」

写真票及び受験票には必ず同一写真を剥がれないように貼り、志望する学部、学科・課程、専攻・教科専攻、氏名を記入し、写真票にはさらに生年月日を記入し、生年の年号、性別を○で囲んでください。また、写真の裏に氏名を記入してください。

「住所票（志願者、出身学校）」

- ・合格通知の郵便物が確実に受け取れるように、正確に記入してください。
- ・推薦入試Ⅰ志願者（工学部志望者のみ）は、第1次選抜結果通知書送付先（出身学校）についても記入してください。

4. 学科（専攻）・課程（教科専攻）のコード番号

下表は志願票の「4. 志望学科（専攻）・課程（教科専攻）」欄に記入するコード番号です。

学 部	学 科 ・ 課 程	コ ー ド	専 攻	学 部	学 科 ・ 課 程	コ ー ド	専 攻
文 学 部	総 合 人 間 学 科	0 1		法 学 部	法 学 科	0 1	
	歴 史 学 科	0 2		医 学 部	医 学 科	0 1	
	文 学 科	0 3			2 1	看 護 学	
	コミュニケーション情報学科	0 4			2 2	放 射 線 技 術 科 学	
教 育 学 部	小学校教員養成課程	1 0		薬 学 部	保 健 学 科	2 3	検 査 技 術 科 学
	中学校教員養成課程	2 3	理 科			0 1	
		2 7	技 術	0 2			
		2 8	家 庭				
	特別支援教育教員養成課程	3 0		工 学 部	薬 学 科	0 1	
養護教諭養成課程	5 0		創 薬 ・ 生 命 薬 科 学 科		0 2		
			物 質 生 命 化 学 科		0 1		
			マ テ リ ア ル 工 学 科		0 2		
				機 械 シ ス テ ム 工 学 科	0 3		
				社 会 環 境 工 学 科	0 4		
				建 築 学 科	0 5		
				情 報 電 気 電 子 工 学 科	0 6		
				数 理 工 学 科	0 7		

5. 受 験 票

(1) 受験票の送付

推薦入試Ⅰ 平成 28 年 11 月 11 日（金），本学から発送します。

入学試験当日は，「熊本大学入学試験受験票」を必ず持参してください。

推薦入試Ⅱ 平成 29 年 1 月 26 日（木），本学から発送します。

入学試験当日は，「熊本大学入学試験受験票」と「大学入試センター試験受験票」を必ず持参してください。

(2) 受験票の保管

「大学入試センター試験受験票」は，入学手続の際にも必要ですので保管しておいてください。

6. 受験に際しての注意事項

(1) 遠方からの受験生は，風雪害等による交通機関の遅れ等を考慮し，日程に十分ゆとりをもって行動してください。

(2) 受験時の宿泊は受験者が手配してください。

(3) 受験者は，試験日の前日，下見をして試験場の場所を確認するとともに，試験についての注意事項を確認しておいてください。

推薦入試Ⅰ	平成 28 年 11 月 18 日（金）	13 時から 15 時まで
推薦入試Ⅱ	平成 29 年 2 月 3 日（金）	13 時から 15 時まで

(4) 試験当日は本学受験票及び推薦入試Ⅱにおいては大学入試センター試験受験票も携帯し，指定の時刻・場所に集合してください。

- (5) 携帯電話等の電子機器類は試験室に入る前に必ずアラームの設定を解除し電源を切っておいてください。試験時間中に、これらをかばん等にしまわず、身につけていたり手に持っている**と不正行為と**なることがあります。
- (6) 小論文は、試験開始時刻に遅刻した場合は、試験開始時刻後 30 分以内であれば受験を認めます。
- (7) 面接は、集合時刻に遅刻した者は、受験できないことがあります。
- (8) 不正行為について
- ① 次のことをすると**不正行為**となります。不正行為を行った場合は、その場で受験の中止と退室を命じられ、**それ以後の受験はできなくなります**。

- ア 志願票、受験票・写真票、解答用紙へ故意に虚偽の記入（受験票・写真票に本人以外の写真を貼ることや解答用紙に本人以外の名前・受験番号を記入するなど。）をすること。
- イ カンニング（試験の教科・科目に関係するメモやコピーなどを机上等に置いたり見たりすること、参考書の内容や他の受験者の答案等を見ること、他の人から答えを教わることなど。）をすること。
- ウ 他の受験者に答えを教えたりカンニングの手助けをすること。
- エ 試験時間中に、問題冊子を試験室から持ち出すこと。
- オ 解答用紙を試験室から持ち出すこと。
- カ 試験開始の指示の前に、問題冊子を開いたり解答を始めること。
- キ 試験時間中に、携帯電話、スマートフォン、腕時計型端末、電子辞書、IC レコーダー等の電子機器類を使用すること。
- ク 試験時間中に、定規、コンパス、電卓、そろばん、グラフ用紙等の補助具を使用すること。
- ケ 試験終了の指示に従わず、鉛筆や消しゴムを持っていたり解答を続けること。

- ② 上記①以外にも、次のことをすると**不正行為と**なることがあります。指示等に従わず、不正行為と認定された場合の取扱いは、上記①と同様です。

- ア 試験時間中に、携帯電話、スマートフォン、腕時計型端末等の電子機器類や定規、コンパス、電卓等の補助具、参考書をかばん等にしまわず、身に付けていたり手に持っていること。
- イ 試験時間中に携帯電話や時計等の音（着信・アラーム・振動音など。）を長時間鳴らすなど、試験の進行に影響を与えること。
- ウ 試験に関することについて、自身や他の受験者を利するような虚偽の申出をすること。
- エ 試験場において他の受験者の迷惑となる行為をすること。
- オ 試験場において試験監督者等の指示に従わないこと。
- カ その他、試験の公平性を損なうおそれのある行為をすること。

7. 合格者発表

推薦入試Ⅰ 平成 28 年 12 月 2 日（金）9 時（予定）

推薦入試Ⅱ 平成 29 年 2 月 8 日（水）9 時（予定）

全学教育棟前の掲示板（黒髪北地区）に合格者受験番号を掲示するとともに、合格者には「合格通知書」及び入学手続等の詳細を記載した「入学手続・入学式等案内」冊子等をレターパックプラス（対面で届けられ、受領印又は署名が必要な郵便）で上記日時以降に郵送します。選考結果については、推薦学校長にも通知します。また、参考までに熊本大学ウェブサイト（<http://www.kumamoto-u.ac.jp/>）にも合格者の受験番号を掲載します。

（9 時頃予定。当日の通信環境の状況等により遅れる場合があります。）

なお、電話等による可否の照会には一切応じません。

注意：試験日前日や試験日当日に、大学周辺等で可否電話等の受付を行う者がいても、本学とは一切関係ありませんので、十分注意してください。

※合格通知書の氏名について

コンピュータに登録する際に慣用字体を用いますので、志願票の表記と異なる場合があります。

8. 入学手続

入学手続等の詳細については、合格通知書発送の際にお知らせします。

(1) 入学手続期間

平成 29 年 2 月 14 日（火）から 2 月 15 日（水）17 時（必着）

入学手続は郵送とし、「書留速達」郵便で、2 月 15 日（水）17 時必着です。

(2) 提出書類等

①誓約書 ②保証書 ③学生証用顔写真（縦 4cm×横 3cm）（私服〈制服不可〉）④外国語履修申込書
⑤大学入試センター試験受験票（推薦入試Ⅱ及びセンター試験に出願した者）

(3) 入学手続時の必要経費

入学料（予定額） 282,000 円

（注）入学料及び授業料の納入方法、入学料免除の申請手続等については、合格通知書発送の際にお知らせします。

なお、授業料の納入は入学手続時には必要ありませんが、平成 29 年度は前期分 267,900 円（年額 535,800 円）の予定です。

(4) 問い合わせ先

熊本大学学生支援部入試課 （電話）096-342-2146

9. 合格者に対する注意事項

- (1) 推薦入試合格者が、入学手続期間中に入学手続又は入学辞退の手続を行わないときは、合格者としての権利を失い、国公立大学の個別学力検査（一般入試）を受験してもその合格者とはなりません。
- (2) 推薦入試合格者で、入学手続を完了した者は、国公立大学の個別学力検査（一般入試）を受験してもその合格者とはなりません。
- (3) 国公立大学の一般入試における合格決定業務を円滑に行うため、氏名及び大学入試センターの受験番号に限って、推薦入試の合格及び入学手続等に関する個人情報、独立行政法人大学入試センター及び併願先の国公立大学に送達されます。
- (4) 入学手続を完了した推薦入試合格者に特別の事情があつて、推薦入学を辞退する場合には、推薦を行った学校長から「推薦入学辞退願」（様式は自由）を、平成 29 年 2 月 15 日（水）までに本学学長に提出して、その許可を得なければなりません。
- (5) 推薦入試合格者で、入学手続完了後、高等学校を卒業しない等の事由が生じた場合は入学許可を取り消します。

10. 推薦入試志願者が一般入試を志願する場合の取扱い

推薦入試志願者が国公立大学の一般入試を志願する場合は「前期日程」、「後期日程」グループからそれぞれ一つ、合計二つまでの大学・学部に出願することができます。

その際、一般入試の志願者と同様に平成 29 年 1 月 23 日（月）から 2 月 1 日（水）までの間に、改めて出願しなければなりません。

この場合、大学入試センター試験については、志望する大学・学部所定の教科・科目を受験しておくことが必要です。

1 1. 障がい等を有する入学志願者との事前相談

障がい等を有する入学志願者で、本学において受験上及び修学上特別な配慮を必要とする者は、出願に当たっては以下により相談してください。

なお、特別措置の対象となる者は、下表のとおりです。

(1) 相談の時期

推薦入試Ⅰ 平成28年10月11日(火)まで

推薦入試Ⅱ 平成29年1月6日(金)まで

相談の内容によっては対応に時間を要することがあり、本学の試験までに対応できず特別措置が講じられないこともありますので、できるだけ早い時期に相談してください。

ただし、期限後に不慮の事故等により身体に障がい等を有することとなった場合は、その際に相談してください。

なお、視覚・聴覚障がい、体幹及び両上下肢の機能障がいが著しい者で、「点字解答」及び「代筆解答」を希望する者は、下記の期限までに相談してください。

推薦入試Ⅰ 平成28年10月7日(金)

推薦入試Ⅱ 平成28年12月2日(金)

(2) 相談の方法

① 申請書及び医師の診断書を提出してください。

なお、必要な場合は本学において、志願者又はその立場を代弁し得る出身学校関係者等との面接を行うことがあります。

② 申請書は、本学ウェブサイト (<http://www.kumamoto-u.ac.jp>) 掲載の様式を利用してください。

(3) 問い合わせ先

〒860-8555 熊本市中央区黒髪2丁目40番1号

熊本大学学生支援部入試課

(電話) 096-342-2148 月～金曜日(休日を除く) 8時30分～17時15分

区 分	特別措置の対象となる者
[ア] 視覚障がい	<ul style="list-style-type: none"> 点字による教育を受けている者 視力が高い方の目の矯正視力が0.15以下の者 両眼による視野について視能率による損失率が90%以上の者 上記以外の視覚障がい者
[イ] 聴覚障がい	<ul style="list-style-type: none"> 両耳の平均聴力レベルが60デシベル以上の者 上記以外の聴覚障がい者
[ウ] 肢体不自由	<ul style="list-style-type: none"> 体幹の機能障がいにより座位を保つことができない者又は困難な者 両上肢の機能障がい著しい者 上記以外の肢体不自由者
[エ] 病 弱	<ul style="list-style-type: none"> 慢性の呼吸器、心臓、腎臓疾患等の状態が継続して医療・生活規制を必要とする程度の者又はこれに準ずる者
[オ] 発達障がい	<ul style="list-style-type: none"> 自閉症、アスペルガー症候群、広汎性発達障がい、学習障がい、注意欠陥多動性障がいのため特別な措置を必要とする者
[カ] そ の 他	<ul style="list-style-type: none"> [ア]～[オ]の区分以外の者で特別措置を必要とする者

1 2. 寄宿舍（学生寮）申込方法

入学後、自宅から通学が不可能なため入寮を希望する者は、合格発表を待たずに次のとおり入居願書を請求し、申し込んでください。

なお、例年希望者多数のため、家計状況を優先して選考します。

(1) 入居願書請求

請求期間 平成 29 年 1 月 23 日（月）から 2 月 1 日（水）まで（必着）

請求方法

学務課（生活支援担当）の窓口で受け取るか、郵送で請求してください。

郵送で請求する場合は、封筒の表に「寄宿舍入居願書請求」と朱書し、返信用封筒〔定形外角形 2 号（24cm×33.2cm）にあて先を明記し、140 円分の切手を貼ったもの〕を同封してください。

(2) 請求（照会）先

〒860-8555 熊本市中央区黒髪 2 丁目 40 番 1 号

熊本大学学生支援部学務課（生活支援担当）

電話 096-342-2124

受付時間 月～金曜日（休日を除く） 8 時 30 分～17 時 15 分

1 3. 奨学金

日本学生支援機構奨学生に出願し、選考の結果により第一種奨学金（平成 28 年度は、月額（自宅）30,000 円・45,000 円から選択、（自宅外）30,000 円・51,000 円から選択）、又は第二種奨学金（平成 28 年度は、月額 30,000 円・50,000 円・80,000 円・100,000 円・120,000 円から選択）の貸与を受けることができます。

その他、地方公共団体及び民間団体の奨学金制度もあります。

熊本県医師修学資金について

熊本県において、医学部医学科卒業後、熊本県知事が指定する県内の病院等に医師として 9 年間従事することを返還免除の条件とする奨学金「熊本県医師修学資金」（入学料、授業料及び生活費相当額）を貸与する制度が平成 21 年度から実施されています。本奨学金制度については、2 つの枠がありますが、貸与金額や返還免除の条件に違いはありません。

- ・貸与内訳：入学料相当額（1 年生のみ）、授業料相当額、生活費相当額（月額 75,000 円）
（6 年間で約 900 万円程度の貸与となります。）

（地域枠）

貸与対象者は医学部医学科の推薦入試（地域枠）に合格し、医学部医学科に入学する者に貸与されます。

（一般枠）

上記地域枠とは別に、医学部医学科に新たに入学する者及び在学生のうち貸与を希望する者から 5 人を上限として選考されます。なお、一般枠について貸与者が募集定員に満たない場合には、年度途中に追加募集が行われます。

具体的な内容等については、合格発表後にお送りする「入学手続・入学式等案内」で出願方法、奨学金の額、選考方法等をお知らせします。

熊薬 125 周年記念甲斐原守夫奨学金について

この制度は、卒業生の甲斐原守夫氏の寄附金により創設するものです。支給対象者は、薬学研究者を目指し、薬学部にて優れた成績で入学した者の中から 5 人を上限に決定します。選考基準を満たす者がいなかった場合は、その年度は「支給対象者無し」とします。

詳しい内容については、生命科学系事務課薬学事務チーム教務担当（TEL096-371-4635）にお問い合わせください。

14. 入学料免除・徴収猶予

(1) 入学料免除について

次のいずれかに該当する場合に、本人の申請に基づき選考のうえ入学料の全額または半額が免除される制度です。

- ① 経済的理由によって入学料の納入が困難であり、かつ、学業優秀と認められる者
- ② 平成28年4月1日から平成29年3月31日までの期間に学資を主として負担している者が死亡し、入学料の納入が著しく困難であると認められる者
- ③ 平成28年4月1日から平成29年3月31日までの期間に本人又は学資を主として負担している者が風水害等の災害を受け、入学料の納入が著しく困難であると認められる者

(2) 入学料の徴収猶予について

経済的理由によって納入期限までに入学料の納入が困難と認められる場合に、本人の申請に基づき選考のうえ入学料の納入が猶予される制度です。

(注) この制度は、入学料の納入を猶予するものであり、免除ではありません。なお、徴収猶予が認可された場合の入学料の納入期限は、平成29年9月29日(金)です。

(3) 入学料免除・徴収猶予の申請方法について

合格発表後にお送りする「入学手続・入学式等案内」でお知らせいたします。

15. 授業料免除

次のいずれかに該当する場合に、本人の申請に基づき選考のうえ授業料の全額または半額が免除される制度です。

- (1) 経済的理由によって、授業料の納入が困難であり、かつ、学業成績が優秀と認められる者
- (2) 平成28年4月1日から平成29年3月31日までの期間に学資を主として負担している者が死亡し、授業料の納入が著しく困難であると認められる者
- (3) 平成28年4月1日から平成29年3月31日までの期間に本人又は学資を主として負担している者が風水害等の災害を受け、授業料の納入が著しく困難であると認められる者

申請方法については、合格発表後にお送りする「入学手続・入学式等案内」でお知らせいたします。

16. 平成28年熊本地震に伴う熊本大学独自の経済支援

入学料免除・授業料免除について

平成28年熊本地震により、学資を主として負担している者が災害救助法適用地域で被災し、家計急変のため修学が困難となった入学者に対して、前述の一般制度「14. 入学料免除・徴収猶予」及び「15. 授業料免除」とは別に、被災状況に応じた「熊本地震特別枠」の入学料及び授業料免除制度があります。詳細は、合格発表後に送付します「入学手続・入学式等案内」でお知らせします。

熊大復興の意気や溢るる奨学金（給付型奨学金制度）について

本学では、学資負担者が被災した学生に対する修学支援として、熊本地震復興事業基金等による大学独自の給付型奨学金制度（緊急支援奨学金）を創設しました。対象要件や給付額は次のとおりです。詳細は、本学公式ウェブサイトを確認してください。

(対象要件・給付額)

- ① 学資負担者が死亡した者
※最短修業年限の期間月額10万円支給(120万円)
- ② 学資負担者が失業又は就業の見込みが立たないことに伴い経済的に困窮している者
- ③ 学資負担者の家屋が全壊又は大規模半壊の者
※上記②③は、1年間に限り月額10万円支給(120万円)

《問い合わせ先及び受付時間》 月～金曜日（休日を除く）8時30分～17時

入学料免除・授業料免除：熊本大学学生支援部学務課 経済支援担当 （電話）096-342-2126

大学独自の給付型奨学金：熊本大学学生支援部学務課 緊急支援奨学金担当（電話）096-342-2151

17. 請求により本人に開示される個人情報

平成29年度入学者選抜に係る成績及び調査書の開示は次のとおり取り扱います。

(1) 個人成績の開示

① 開示期間

平成29年5月1日(月)から6月30日(金)の間に郵送により通知します。

※ 開示通知書は出願時に志願票の開示通知書送付先の欄に記載された住所に郵送します。このため、出願時から開示期間終了までの間に転居が予想される場合は、帰省先等、確実に通知書が受領できる住所を記載してください。

なお、現住所と同じ場合は、記載不要です。（高校・予備校の寮等の住所は記載しないでください。）

注1) 平成29年 6月中旬頃発送の予定です。6月下旬までに届かない場合は入試課へご連絡ください。

注2) 「宛先不明」等で返送された場合、本学で保管するのは平成30年3月末日までとします。

② 申込方法

- ・成績開示を希望する志願者は、本学の入学志願票「開示請求」する欄の「1」を○で囲んでください。
- ・出願時に成績開示を希望しなかった場合は、出願後に成績開示を希望することはできません。
- ・本要項とじ込みの17,362円の払込用紙で検定料を払い込んでください。（362円は通知に係る郵送料です。この郵送料を払い込んでいない場合は成績開示は行いませんので十分注意してください。）6月下旬の開示時期まではお客様用受領証を保管ください。
- ・志願票に貼り付けてある「検定料受付証明書」の払込額と志願票の記入に矛盾があった場合は、「検定料受付証明書」の払込額に従い受け付けます。

③ 開示内容

- ・試験成績【得点】
大学入試センター試験：採用した各教科・科目ごとの得点（換算点）及び総合点（換算点）
個別学力検査等：科目別得点、総合点及び評価
- ・試験成績【順位】
総合点の順位
- ・合格最低点
- ・調査書
評定平均値

(2) 調査書の開示

① 申込期間

平成29年5月1日(月)から6月30日(金)までの8時30分から17時15分（休日を除く）

② 申込方法

直接、入試課窓口申し込んでください。代理人による申込はできません。
窓口閲覧のため、郵送、電話、FAX等での申込は受け付けません。

③ 開示内容

出願時に提出された調査書の閲覧とします。

ただし、「指導上参考となる諸事項」及び「備考」欄を除きます。

(3) その他

平成28年度以前の入学者選抜に係る個人成績・調査書は、開示しません。

(4) 問い合わせ先

〒860-8555 熊本市中央区黒髪2丁目40番1号

熊本大学学生支援部入試課

(電話) 096-342-2148

受付時間 月～金曜日(休日を除く) 8時30分～17時15分

18. 個人情報の取扱い

本学が入学者選抜を通じて取得した個人情報については、入学者選抜で利用するほか、次のとおり利用します。

- (1) 合格者の氏名等を入学手続に係わる業務で利用します。
- (2) 入学手続者の氏名等を入学後の学籍管理など修学に係わる業務で利用します。
- (3) 入学手続者及び学資負担者の住所・氏名等を授業料徴収など納入金管理に係わる業務で利用します。
- (4) 入学者選抜で取得した成績等の個人情報を、1年次における入学料免除・授業料免除及び奨学生選考など修学支援に係わる業務で利用します。
- (5) 個人が特定できないように統計処理したデータを、入学者選抜に関する調査・研究等で利用します。

※ 本学が取得した個人情報は、「独立行政法人等の保有する個人情報の保護に関する法律」第9条に規定されている場合を除き、出願者本人の同意を得ることなく他の目的で利用又は第三者に提供することはありません。

(参考資料)

平成28年度推薦入試Ⅰ（大学入試センター試験を課さない）の実施状況

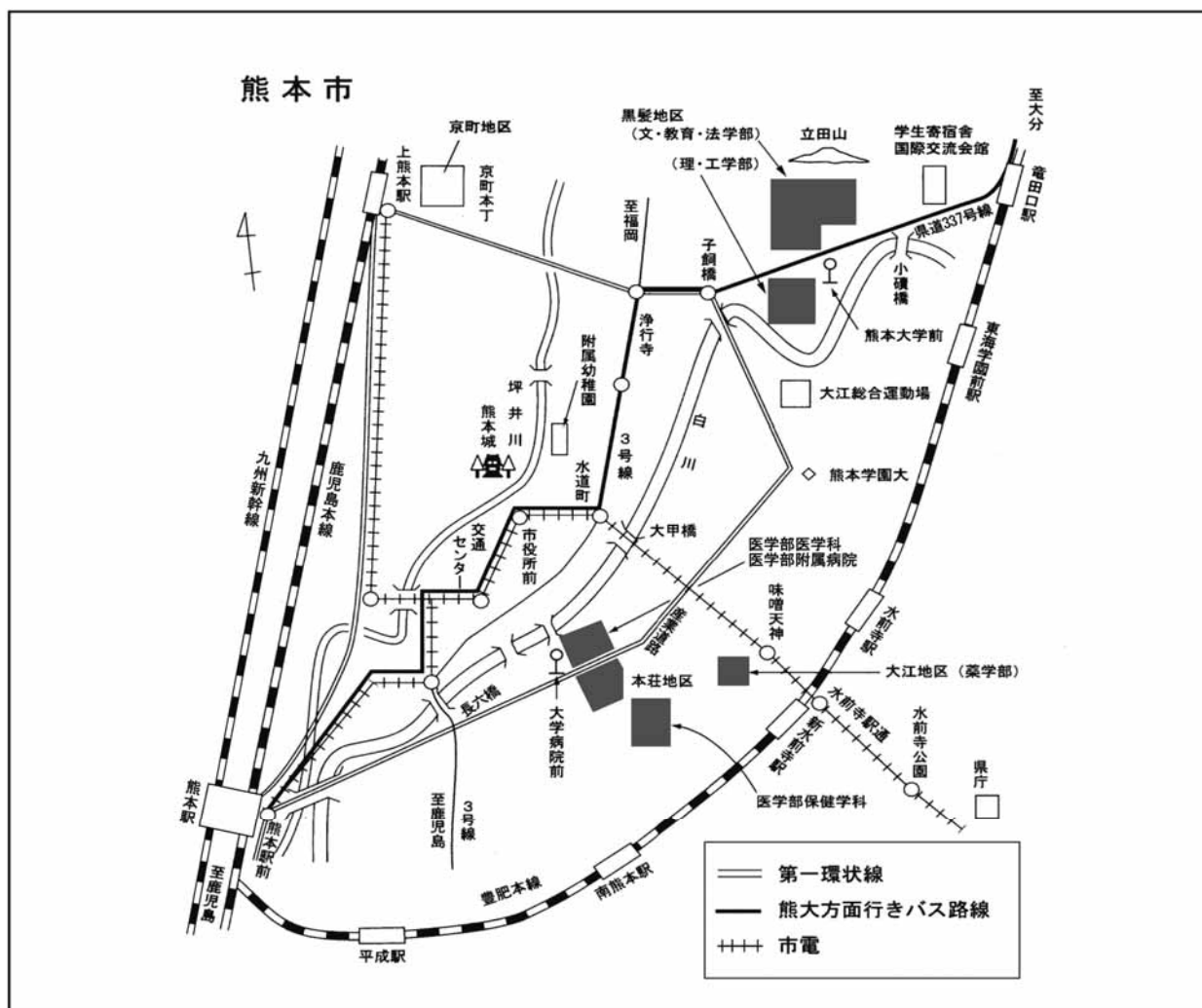
学部	学科・課程	募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
文学部	総合人間学科	9	22	22	9	9
	歴史学科	4	19	19	4	4
	文学科	5	26	26	6	6
	コミュニケーション 情報学科	5	22	22	6	6
教育学部	生涯スポーツ福祉課程（ア）	15	36	36	15	15
	生涯スポーツ福祉課程（イ）	若干名 〔教育学部（7）の 募集人員の枠内〕	0	0	0	0
法学部	法学科	20	67	67	22	22
工学部	物質生命化学科	5	12	12	7	7
	マテリアル工学科	6	8	8	7	7
	機械システム工学科	5	10	10	6	6
	社会環境工学科	6	25	25	7	7
	情報電気電子工学科	5	18	18	5	5
合 計		85	265	265	94	94

(参考資料)

平成28年度推薦入試Ⅱ（大学入試センター試験を課す）の実施状況

学部	学科・課程・専攻		募集人員	志願者数	受験者数	合格者数	入学者数
教育学部	小学校教員養成課程		20	88	88	20	20
	中学校教員養成課程	理科	5	17	17	5	5
		技術	2	4	4	2	2
		家庭	2	6	6	2	2
	特別支援教育教員養成課程		6	7	7	6	6
	養護教諭養成課程		8	32	32	8	8
	地域共生社会課程		5	34	34	5	5
医学部	医学科	一般枠	15	42	41	15	15
		地域枠	5	11	11	5	5
	保健学科	看護学専攻	12	43	43	12	12
		放射線技術科学専攻	4	21	21	4	4
		検査技術科学専攻	5	22	21	5	5
薬学部	薬学科	10	44	44	10	10	
	創薬・生命薬科学科	10	18	18	10	10	
工学部（ア）	物質生命化学科		18	34	34	19	19
	マテリアル工学科		5	9	8	7	7
	機械システム工学科		15	33	33	16	16
	社会環境工学科		14	21	21	15	15
	建築学科		12	34	34	12	12
	情報電気電子工学科		28	55	55	28	28
	数理工学科		2	9	9	3	3
工学部（イ）	物質生命化学科		各学科とも若干名 [工学部(7)の募集人員の枠内]	1	1	1	1
	マテリアル工学科			0	0	0	0
	機械システム工学科			2	2	0	0
	社会環境工学科			0	0	0	0
	建築学科			0	0	0	0
	情報電気電子工学科			1	1	1	1
	数理工学科			1	1	1	1
合 計			203	589	586	212	212

熊本大学位置図



交通機関

黒髪地区（文・教育・法・理・工の各学部・
学生支援部・全学教育棟）

◎ J R 熊本駅から

産交バス：楠団地，光の森産交方面行き（熊本大学経由）に乗車，「熊本大学前」下車

都市バス：第1環状線〔駅2〕（大学病院・大江渡鹿経由）に乗車，「子飼橋」下車，徒歩10分

◎ 交通センターから

産交バス：楠団地，光の森産交方面行き（熊本大学経由）に乗車，「熊本大学前」下車
電鉄バス：楠団地行き等（子飼橋経由）に乗車，「熊本大学前」下車

◎ J R 上熊本駅から

都市バス：第1環状線〔駅1〕（子飼橋経由）に乗車，「子飼橋」下車，徒歩10分

◎ J R 竜田口駅（豊肥本線）から

産交バス・電鉄バス：交通センター行きに乗車，

「熊本大学前」下車

本荘・九品寺地区（医学部）

◎ J R 熊本駅から

都市バス：第1環状線〔駅2〕（大学病院・大江渡鹿経由）に乗車，「大学病院前」下車

◎ 交通センターから

都市バス：八王寺環状，流通団地線（野越団地行）に乗車，「大学病院前」下車

大江地区（薬学部）

◎ J R 熊本駅から

市電：健軍行きに乗車，「味噌天神」下車，徒歩5分

◎ 交通センターから

都市バス：小峯，日赤行き等（県庁経由）に乗車，「味噌天神」下車，徒歩5分

産交バス：木山，沼山津行き等（健軍・県庁経由）に乗車，「味噌天神」下車，徒歩5分

◎ J R 新水前寺駅（豊肥本線）から徒歩10分

入試に関する問い合わせは、下記のところでお受けしています。
受付時間 月～金曜日（休日を除く） 8:30～17:15

〒860-8555 熊本市中央区黒髪2丁目40番1号
熊本大学学生支援部入試課

TEL:096-342-2148 FAX:096-345-1954
E-mail:nyushi@jim.kumamoto-u.ac.jp

問い合わせは志願者本人が行ってください。

熊本大学ウェブサイト
<http://www.kumamoto-u.ac.jp/>